

赤城さんの頭ん中

アサルトゲーマー

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

成績優秀、容姿端麗、頭脳変人の赤城が送る鎮守府コメディです。

TS、GL要素は匂わせる程度にしかありません。

赤城さんもほぼ別人です。

※本作は掲示板要素が特盛です。ネット用語に抵抗のある人はご注意ください。

目次

【最終回】 赤城氏について書かれた本が出版される	1
【安価】 艦娘になったったwww	10
【速報】 演習中！人員求む！	17
【急募】 加賀さんと仲良くなる方法	23
【速報】 赤城氏、後輩ができる	29
【悲報】 赤城、痴女	38
【新規】 ミスター提督について語るスレPart1598【歓迎】	47
【祝い】 今日は提督のお誕生日です	53
【演習】 作戦会議スレ	60
【安価】 加賀さんを慰めるスレ	67
【安価】 明日はバレンタインデーです	73
【清楚】 清↓楚 完成でスーパ―清楚タイム	80
【報道】 青葉Ⅱサンのインタビュー	87
【急募】 不知火から身を守る方法	93
【速報】 大井つち、やはりレズ	99
【提案】 駆逐年長組とも仲良くなろう	107
【悲報】 比叡ちゃん、Aさんに美味しくいただけられたらしい	117
【速報】 瑞鶴、来襲	126
【拝聴】 叢雲ちゃんのえちえちボイス配布中	135

【最終回】 赤城氏について書かれた本が出版される

とある田舎の本屋。

そこでは一人のバイト少女が暇そうにカウンターに立っていた。その本屋は車通りが多く入りづらい道に面している関係上客は少なく、その少ない客も大体は雑誌の立ち読みをしている。要するに何もすることが無いのであった。

店長いわく「暇だったら本を持ち込んで読んでいいよ」らしいが妙に生真面目な性格が邪魔してか、そんな事をする気にならない彼女は客をぼおつと見ている。

背の高いリーマン風の男。ちいさな学生。頭にプラモを乗つけた美女。

「えっ?」

思わず美女を凝視する。長くつややかなみどりの黒髪。素朴さを感じさせながらも浮世離れた美貌。服の上からでもわかる盛り上がった胸部。そして頭頂部のプラモモデル。

あれは飛行機だろうか? そういうのに詳しくない彼女はそれがレシプロ機であることくらいしかわからない。

「あの」

「はわっ!?!」

突如声を掛けられて声を上げる彼女。プラモに気を取られてか、美女がやってくるのに気が付いていなかったようだ。

バイトの彼女は慌ててカウンターに視線を落とす。そこには今日入荷されたばかりの本が置いてあった。

『例の赤城の奇行本』

稀覯本と掛けているのだろうか、ひどいタイトルだった。

1 : 2 0 Z Z / Z Z / Z Z

おまえら喜べ

赤城について書かれた本が出たぞ

すごい名無し : 2 0 Z Z / Z Z / Z Z

【赤城】 うおおおおおおおおお!!

すごい名無し : 2 0 Z Z / Z Z / Z Z

こんなところで田舎の本屋の恩恵にあずかるとはな

すごい名無し : 2 0 Z Z / Z Z / Z Z

確かに

すごい名無し : 2 0 Z Z / Z Z / Z Z

どうだった1 中身ヤバそうか?

1 : 2 0 Z Z / Z Z / Z Z

ナイロンで梱包されてた 買ってから読んだほうがいい

すごい名無し : 2 0 Z Z / Z Z / Z Z

早く読んでくれ! もう待ちきれないよ!

1 : 2 0 Z Z / Z Z / Z Z

じゃあ開きますね:

すごい名無し : 2 0 Z Z / Z Z / Z Z

タイトルの時点でもう草

すごい名無し：20ZZZ／ZZZ／ZZZ
ンだよこのクソタイトル（ピシヤツ

すごい名無し：20ZZZ／ZZZ／ZZZ
しよっぱなから強烈な一言書かれてて草www

すごい名無し：20ZZZ／ZZZ／ZZZ
草に草はやすな

すごい名無し：20ZZZ／ZZZ／ZZZ
草isやすな

すごい名無し：20ZZZ／ZZZ／ZZZ
【キルミーベイバー】うおおおおおおお!!

1：20ZZZ／ZZZ／ZZZ

大淀「控えめに言って変人」

吹雪「普段はいい人なんだけど…」

漣「常識をどこかに忘れてきた人」

加賀「好色で変態」

どれもこれも酷いが全て事実という

すごい名無し：20ZZZ／ZZZ／ZZZ

(白目)

すごい名無し：20ZZZ／ZZZ／ZZZ
一体何やったんだ…

すごい名無し：20ZZZ／ZZZ／ZZZ
え？知らないの？

すごい名無し：20ZZ/ZZ/ZZ
まさか：新人!?

すごい名無し：20ZZ/ZZ/ZZ
神人だ!!

すごい名無し：20ZZ/ZZ/ZZ
困め困め!

すごい名無し：20ZZ/ZZ/ZZ
ドンドコドンドコドンドコ

すごい名無し：20ZZ/ZZ/ZZ
こいつらいつも新人困んで太鼓叩いてんな…

すごい名無し：20ZZ/ZZ/ZZ
いままでやった赤城の奇行

- ・飛行甲板に乗って飛ぶ
- ・提督のおやつを定期的にすりかえる
- ・加賀さんに演習！暴力！エセックス！
- ・吹雪ちゃんを撫でまわす
- ・漣ちゃんを困らせる

すごい名無し：20ZZ/ZZ/ZZ
駆逐艦に対してやさしい +8101919点

すごい名無し：20ZZ/ZZ/ZZ
いや待て：もし新人なら俺たちの体の秘密も知らないのでは…?
(サウザー並感)

1：20ZZ/ZZ/ZZ

そうだよ（便乗）

じゃけん新人研修でもはじめっぺ！

すごい名無し：20ZZZ／ZZ／ZZ
今始まつてる！！

すごい名無し：20ZZZ／ZZ／ZZ
研修始まつたから安心！

1：20ZZZ／ZZ／ZZ

えーまずは私たちのボデーについてお話しします（邪淫）

おれらがいつも赤城と呼んでるボデーは1以外も動かすことができます。でも他人が動かしてるときに無理に動かそうとすると互いの動きが変に合わさって妙な動きになるからやめてね☆

すごい名無し：20ZZZ／ZZ／ZZ

赤城さんはみんなの

すごい名無し：20ZZZ／ZZ／ZZ

オルガ母さん

すごい名無し：20ZZZ／ZZ／ZZ

やめないか！！

1：20ZZZ／ZZ／ZZ

次は艦載機についてお話しします（邪淫）

彩雲以外は一つに付き定員まで。撃墜された場合は赤城のほうに意識が戻ります。安心して死ね！

すごい名無し：20ZZZ／ZZ／ZZ

ひどい（脇下こなみ）

すごい名無し：20ZZZ／ZZZ／ZZZ
こなみちゃんは関係ないだろ！いい加減にしろ！

すごい名無し：20ZZZ／ZZZ／ZZZ
オー ト ベリ ナ ス

1：20ZZZ／ZZZ／ZZZ
次はおれらについてお話しします（邪淫）

分身可能（たまにデッドコピーが出る）、人数不明、定期的に新人が出るくらいしか分かってません。気にするな！（魔王）

すごい名無し：20ZZZ／ZZZ／ZZZ
やはり俺らは集合的無意識を文字列化した存在なのでは

すごい名無し：20ZZZ／ZZZ／ZZZ
むしろアカシックレコード

すごい名無し：20ZZZ／ZZZ／ZZZ
全然わからん！

1：20ZZZ／ZZZ／ZZZ
最後に彩雲についてお話しします（邪淫）

相乗りはいくらでもできます。でも操作は彩雲兄貴しかできません。
ん。

彩雲はオンリーワンです。撃墜されたら復活は多分無いです。

すごい名無し：20ZZZ／ZZZ／ZZZ
なんで？（レ）

1：20ZZZ／ZZZ／ZZZ

俺気づいちやったんだよね…

本体は赤城じゃなくて彩雲じゃないかって

すごい名無し：20ZZZ／ZZ／ZZ

な、なんだってー!?

すごい名無し：20ZZZ／ZZ／ZZ

おいどういことだ！説明しろ苗木！

1：20ZZZ／ZZ／ZZ

彩雲のコックピットの中見てみたら中にスマホ入ってるのよね

誰が入れたの？って思っても彩雲兄貴が駐在してるのに誰も入れ
れるわけないじゃん？じゃあ最初から入ってたわけじゃん？

すごい名無し：20ZZZ／ZZ／ZZ

スマホを!?(驚愕)触媒に:!!?(納得)

すごい名無し：20ZZZ／ZZ／ZZ

え?じゃあなんで彩雲に入ってるの?赤城に入ってるべきじゃん
?

1：20ZZZ／ZZ／ZZ

それがな…。俺って任務報酬で大本営から送られてきた赤城の触
媒だったわけよ。

だから赤城だと思って体作ったんだけどさ…本来はスマホで彩雲
が完成しちゃっただけで終わりだったみたいなんだよね

すごい名無し：20ZZZ／ZZ／ZZ

へえっ!?

すごい名無し：20ZZZ／ZZ／ZZ

今の発言はアキラカにムジュンしています！
彩雲ができたのなら赤城は作れないはずです！

1：20ZZZ／ZZ／ZZ

それが矛盾してないんだなこれが。

もし、俺が彩雲兄貴のデッドコピーだったとしたら…？

もし、あの赤城がただの艦載機扱いの存在だったとしたら…？

すごい名無し：20ZZZ／ZZ／ZZ

あつ…（察し）

すごい名無し：20ZZZ／ZZ／ZZ

つまり誰でも赤城を動かせるって あつ…（察し）

すごい名無し：20ZZZ／ZZ／ZZ

あつそつかあ…（納得）

すごい名無し：20ZZZ／ZZ／ZZ

ちよつと気になったことがあんだけど

1：20ZZZ／ZZ／ZZ

なんでも聞いてね☆

すごい名無し：20ZZZ／ZZ／ZZ

ん？今なんでもって…

すごい名無し：20ZZZ／ZZ／ZZ

1はなんでいきなり安価なんかしたの？

1：20ZZZ／ZZ／ZZ

なんかやらなきや（使命感）って感じになってつい…

すごい名無し：20ZZZ／ZZZ／ZZZ

まさかスマホ仕込んだ奴も安価してたりしてなWWW

すごい名無し：20ZZZ／ZZZ／ZZZ

そんなことないやろWWW

……ないやろ？

1：20ZZZ／ZZZ／ZZZ

ちよつと検索してみつか！

あつ

すごい名無し：20ZZZ／ZZZ／ZZZ

えっ？

【安価】 艦娘になったったWWW

1:20XX/08/01

えー今日から艦娘になります赤城です(半ギレ)

こんなクソ暑い日に靖国から喚ばれたため安価で容姿と性格を決めることにいたしました

←3髪

海に舞い降りた名無し:20XX/08/01

嘘やん…!

海に舞い降りた名無し:20XX/08/01

こんな雑な安価で容姿決められるとか辞めたくくなりますよー艦娘うゝ

金髪ポニテ

海に舞い降りた名無し:20XX/08/01

ばっかおめえ黒ロングにきまってんだルオ!?

海に舞い降りた名無し:20XX/08/01

ここって皆ハゲなんでしょ?ハゲでいいじゃん

海に舞い降りた名無し:20XX/08/01

ハゲはPapだけだから…

1:20XX/08/01

髪 黒ロング

どんだん行くぞ

←3顔

海に舞い降りた名無し：20XX／08／01
頼むから変なのはやめてくれよ…

~~~~~

1：20XX／08／01

髪 黒ロング

顔 超芋美人

体 隠れおっぱい

身長 ふつう

武器 飛行甲板

性格

・天然

・ふしぎ系おねえさん

・ハラペコキャラ

口癖 ○○って頭の中で何かが言っていました

よしお前から顕在するぞ！オラに力をわけてくれー！

〔添付 設計図〕

海に舞い降りた名無し：20XX／08／01

ちよつと待ってこんな美人ええん!?

海に舞い降りた名無し：20XX／08／01

そもそも俺ら何者なんですかね…？

海に舞い降りた名無し：20XX／08／01

集合的無意識を文字列化したとかそんなのじゃね

海に舞い降りた名無し：20XX／08／01

つまり俺らは実質犬ハサ

海に舞い降りた名無し：20XX／08／01  
犬要素が欠片も見当たらないんですがそれは

海に舞い降りた名無し：20XX／08／01  
ハサミもないだろ！

1：20XX／08／01  
力分けろつってんだろダホマ！

海に舞い降りた名無し：20XX／08／01  
1に怒られちゃっただろ！じゃあ俺おっぱい担当するから！

海に舞い降りた名無し：20XX／08／01  
あつ、おい待てい。まだ肝心な所（尻）作り忘れてるゾ

海に舞い降りた名無し：20XX／08／01  
正直スマンカッタ。じゃあ俺おみあし担当するは

海に舞い降りた名無し：20XX／08／01  
みんな好き勝手してて草

じゃあ俺手な。正直興奮するわ

海に舞い降りた名無し：20XX／08／01  
申吉N

海に舞い降りた名無し：20XX／08／01

ちなみに俺らがこの設計図通りに作れなかったらどうなの？教  
えてエロい人！

1 : 2 0 X X / 0 8 / 0 1  
死ぬよ

海に舞い降りた名無し : 2 0 X X / 0 8 / 0 1  
えっ？

1 : 2 0 X X / 0 8 / 0 1

いや、死ぬよこのまま

俺らも当然消滅

海に舞い降りた名無し : 2 0 X X / 0 8 / 0 1  
こマ？最悪の結末に比べて空気が軽すぎるだろ

海に舞い降りた名無し : 2 0 X X / 0 8 / 0 1  
おっばい作ってる場合じゃねえ!!

海に舞い降りた名無し : 2 0 X X / 0 8 / 0 1  
いやおっばいは頑張れよ

ここ横須賀鎮守府に艦娘の赤城が顕在した。

その姿はまさに天香国色。腰まである長い黒髪は艶やかで清楚らしさを感じさせ、人にとっては野暮つたいと感じる短い袴はその人物のためにあると言わんばかりに似合っている。その姿を見た赤城をこの世に引き寄せた人物：ケン提督は思わず生唾を飲み込んだ。

どこか素朴さを感じさせながらもぞつとするほど美しい顔がこちらに向くと思わずたじろぎ、それを見た赤城は一瞬キョトンとした



後、くすりと笑う。

「初めまして、赤城です」

大人の余裕のような、色香すら感じさせる仕草でケン提督の手を取り、そして…

海に舞い降りた名無し：20XX／08／01  
ちよい待ち！超芋美人じゃなくて芋超美人になってる！

海に舞い降りた名無し：20XX／08／01  
これは教育やろなあ  
ところで作り直しなんてのはできるの？

1：20XX／08／01  
一回h a g eないと無理ぽ  
当然h a g eると俺らも消滅

海に舞い降りた名無し：20XX／08／01  
ジ エ ッ ト ア ッ パ ー

海に舞い降りた名無し：20XX／08／01  
フォートレスを一撃で殺すマンやめろ  
他はなんか変なところないのか？

海に舞い降りた名無し：20XX／08／01  
変なところ（ブーメラン）

海に舞い降りた名無し：20XX／08／01

こ→こ←

1 : 20 X X / 0 8 / 0 1

えー艦娘の赤城です (半ギレ)

こんなクソ暑い日に喚ばれたので安価で提督を退場処分とします

(全ギレ)

← 3

海に舞い降りた名無し : 20 X X / 0 8 / 0 1

完全にとぼつちり W W W W

ケツバツト

海に舞い降りた名無し : 20 X X / 0 8 / 0 1

新しい飛行甲板で試し殴り

海に舞い降りた名無し : 20 X X / 0 8 / 0 1

おっぱい触らせて提督を社会的に抹殺

海に舞い降りた名無し : 20 X X / 0 8 / 0 1

飯おごらせて提督の財布とモンスターを破壊

海に舞い降りた名無し : 20 X X / 0 8 / 0 1

無視

海に舞い降りた名無し : 20 X X / 0 8 / 0 1

ラーメンを頭からそおい!

海に舞い降りた名無し : 20 X X / 0 8 / 0 1

あっ (察し)

海に舞い降りた名無し : 20 X X / 0 8 / 0 1

これは…死じゃな

1:20XX/08/01

安価結果

おっぱい触らせて提督を社会的に抹殺  
じゃあ行ってくるわ

海に舞い降りた名無し:20XX/08/01  
堕ちたな(降格)

赤城の手は、ケン提督の手を握ったまま胸に勢いよく触れた。

「なっ……は、えっ!？」

存外柔らかい。それが彼の感じた最初の気持ちだ。そして遅れて  
困惑が頭を満たす。

何故胸に手を押し付けられているのかが解らなくて赤城を見るも、  
ただ微笑んでいるだけ。

「一体お二人は何を…?」

止まった時間の中で手を差し伸べてくれたのは赤城の召喚に立ち  
会った大淀だ。彼女はケン提督の補佐としてほとんどの時間を傍ら  
で過ごす為、今回のそれも一部始終見ていた。

つまり誤解されるような要素も無く。大淀の中で赤城は異性の手  
を自身の胸に押し当てて痴女になってしまったのだった。

これはやがて伝説となるケン提督と赤城のファーストコンタクト。  
そして後に大淀によって綴られる物語はここから始まる。

小首を傾げて微笑む赤城は人生最大の汚点を作り出したという事  
をまだ知らない。

【速報】 演習中！ 人員求む！

大淀から無事に痴女認定を受けた赤城はケン提督の指示で演習場にいた。

いくらかつての大戦中の英雄と言えども何の訓練もなしに実戦に出すようなことはしない。まずは何よりも訓練なのだ。

召喚された艦娘にはある程度戦い方が備わっているが、それは知識だけだ。

今回は加賀との一対一。広大な演習場には岩礁が突き出ており、索敵や攻撃の正確性、防衛など長時間の戦闘が試される。

そして演習開始のブザーが鳴ったが赤城は動こうとはしなかった。それは余裕なのだろうか。遠距離から見ていたケン提督は興味深げに赤城を見つめていた。

1:20XX/08/01

大変なことが分かった。

俺らって空母じゃん？じゃあ主力は航空機じゃん？普通飛行機ひとつにパイロット一人じゃん？

リソース足りないから手伝ってくださいあ…負けるの怖いんです…

名無しさん@演習中:20XX/08/01

しょうがねえなあ(悟空)

じゃあ俺戦闘機担当するから…

名無しさん@演習中:20XX/08/01

しょうがないにやあ…いいよ

じゃあ俺戦闘機担当するから…

名無しさん@演習中：20XX／08／01  
じゃあボクも戦闘機！

名無しさん@演習中：20XX／08／01  
じゃあ俺も

名無しさん@演習中：20XX／08／01  
私も

1：20XX／08／01  
人員かたよりすぎイ！

名無しさん@演習中：20XX／08／01  
そりやおめえ、ゼロと九九と九七どれ使いたいって言われたらそりや…

名無しさん@演習中：20XX／08／01  
とりあえず何でもいから発艦するゾイ  
もう加賀の戦闘機みえてるんですYO

名無しさん@演習中：20XX／08／01  
これは見つかりましたね…間違いない  
この状態で発艦しても蜂の巣の未来しか見えない

名無しさん@演習中：20XX／08／01  
何だっついていい！発艦するチャンスだ！

目を瞑っていた赤城が飛行甲板のある右腕を突き出した。そして

そこに光が集まり、小さなゼロ戦が複数現れる。

それは飛行甲板からポロポロと零れ落ちるように発艦し、海面スレスレを失速寸前で飛び始めた。向かい風も無く加速もしていない赤城から発艦したらこうなるのは当然で、海に落ち込まないだけ高い技量があるとも言える。

そして亀のような飛行をしている所で加賀のゼロ戦が踊りかかり…その発射された弾丸をすべて躲した。

「なんだと!?!」

それを見ていたケン提督が椅子を蹴飛ばして立ち上がった。ガツンという音が響くが気にする者は誰も居ない。演習を見学していたものは全員が驚愕していたからだ。

赤城のゼロ戦が行ったのは車輪や主翼の一部を海面に付けて急制動を起すというもの。言葉にすると簡単そうに聞こえるがそんな事をすれば当然主翼や車輪に負担が掛かるし折れるという事も十分にあり得る。むしろ折れないほうが不自然だ。

それを発艦したばかりで機体の制御もままならない速度のまま行った赤城の技量に全員が目を剥いたのだった。

目標を外した加賀のゼロ戦は降下したことによって若干不安定になり…その瞬間を赤城の飛行甲板下の対空砲が捉えた。それらは全て一瞬の出来事だった。

名無しさん@演習中：20XX/08/01

羽根海に付いたら素早く方向転換できね?と思ってやってみたら簡単にできてワロタ

名無しさん@演習中：20XX/08/01  
まじだった

名無しさん@演習中：20XX／08／01  
こっちは足折れたんですがそれは

名無しさん@演習中：20XX／08／01  
艦載機は73機もあるのよ！一機くらい何よ！

1：20XX／08／01  
とりあえず対空砲撃ちまくってるから発艦早く

名無しさん@演習中：20XX／08／01  
俺が艦爆の本当の使い方って奴を教えてやるぜ！

~~~~~

名無しさん@演習中：20XX／08／01
いやあ、加賀さんは強敵でしたね

名無しさん@演習中：20XX／08／01
もう終わってる!!

名無しさん@演習中：20XX／08／01
今回はラッキーショット山盛りでしたねえ：

ゼロ戦から逃げる時にポイ捨てした魚雷が当たるとは思いませんでした（こなみ）

1：20XX／08／01
今回はマジありがとう！おまいら愛してる！

名無しさん@演習中：20XX／08／01
いいってことよ

名無しさん@演習中：20XX／08／01
お助け料ひやくおくまんえん
ローンも可

名無しさん@演習中：20XX／08／01
むしろガバガバ攻撃隊ですまぬ：すまぬ：

名無しさん@演習中：20XX／08／01
個→々←の技量で戦況はひっくり返らないけど全員がルーデルとかハルトマンだったらどんなことになるかよく分かるような戦場でしたね：（戦慄）

名無しさん@演習中：20XX／08／01
ゼロ戦が手裏剣みたいになりながら後ろの敵撃ったのはワロタ
そのあと海に落ち込んで腹筋割れるほどワロタ

名無しさん@演習中：20XX／08／01
俺らの腹筋ってどこだよ

勝敗は決した。赤城の艦載機によって加賀は大破し、赤城には艦載機以外損害なし。文句なしの大勝利であったが赤城は困ったように笑っていた。

「すげー」
誰が漏らしたか判らないが、その月並みの感想が全てを物語っていた。

ゼロ戦の操作技術、攻撃の精度、いつ撃ったかも定かではない魚雷による奇襲。その全てがまるでムービースターのごとく極まっていた。

ただ。

「そうか、これが」

ケン提督は察した。英雄というのはこういった人物を指すのだと。

この後加賀の機嫌を取らなきやな、と苦笑いしながら彼は埠頭に歩いて行った。

【急募】 加賀さんと仲良くなる方法

加賀は赤城が恐ろしかった。

彼女の最初の演習を経験してからというもの、赤城の身振り、視線の動き、雑談の言葉に至るまですべてに意味があるように思えてならないのだ。

当の赤城はいつものほほんと笑っている。おおよそ強い人物に共通するオーラのようなものが見えないからこそ恐ろしい。

しかし今日は折の悪い事に入渠施設、有体に言えば大浴場で二人きりとなってしまった。

加賀から声を掛けることはない。しかし赤城から声が掛かることもない。

このまま気まずい時間が流れてしまえばいいと思いつつながらチラと赤城を見ると彼女は加賀を見ながら困ったように笑っていた。

ただそれだけなのに酷く恐ろしく感じた加賀は立ち上がり――

1 : 20XX / 08 / 05

なんか演習したあたりから加賀さんがよそよそしい
じゃけん安価しちやいましょうね

← 3

名前? 知らない子ですね : 20XX / 08 / 05

一緒に甘いもの食べる

名前? 知らない子ですね : 20XX / 08 / 05

工廠デート

名前？知らない子ですね：20XX／08／05
アームロック

名前？知らない子ですね：20XX／08／05
おさんぽ

名前？知らない子ですね：20XX／08／05
加賀さんの腕こわれる

名前？知らない子ですね：20XX／08／05
がああああああ

名前？知らない子ですね：20XX／08／05
人間の屑がこのやろう：

タイルの床に叩きつけられた。加賀が逃げようとした一瞬で左手を取られてアームロックを掛けられたと理解したのは肩から感じる鈍痛を感じてからだ。

彼女は視線を上げて赤城をみやる。そこには困ったように笑う、いつもの赤城がいた。

怒っているのか、本当に困っているのか、何も感じていないのか、加賀には判断できない。だからこそ恐ろしい。

その手から逃れようとジタバタ暴れるがそのたびに極まった腕が痛み、涙がじわりと視界をにじませた。

それからすると喉元に腕が射しこまれて、それから加賀は間もな

く気を失った。

名前？知らない子ですね：20XX／08／05
V1アームロック決まったあああああ！

名前？知らない子ですね：20XX／08／05
加賀さん死んじやう

名前？知らない子ですね：20XX／08／05
がああああ！がああああああ！

名前？知らない子ですね：20XX／08／05
史上最大のピンチ！加賀さんとおれらの運命は!?

1：20XX／08／05
すまない：ただちよつと加賀さんと仲良くなりたくて…
安価←3

名前？知らない子ですね：20XX／08／05
仲良くなるためには優しさが必要だとおもうんですけど

名前？知らない子ですね：20XX／08／05
抱擁

名前？知らない子ですね：20XX／08／05

スリーパーホールド

名前?知らない子ですね : 20XX / 08 / 05
優しく抱きしめる

名前?知らない子ですね : 20XX / 08 / 05
ファツ!?

名前?知らない子ですね : 20XX / 08 / 05
加賀さんの喉壊れちゃう

名前?知らない子ですね : 20XX / 08 / 05
こいつは赤城 見ての通り乱暴な女だ

~~~~~

名前?知らない子ですね : 20XX / 08 / 05  
やつと : 眠ったか

名前?知らない子ですね : 20XX / 08 / 05  
すぐ眠ったと思うんですけど

名前?知らない子ですね : 20XX / 08 / 06  
てっぺんでち!

名前?知らない子ですね : 20XX / 08 / 06  
てっぺんでち!

名前?知らない子ですね : 20XX / 08 / 06

てっぺんでち!

名前?知らない子ですね:20XX/08/06  
でち有能

名前?知らない子ですね:20XX/08/06  
でちが三人:来るぞ赤城!

1:20XX/08/06

来るのは憲兵なんだよなあ:

どうしよ。加賀さんも俺も裸なんやで

案1 とりあえずお持ち帰り

案2 加賀さんを部屋で寝かせておく

案3 放置

安価←3

名前?知らない子ですね:20XX/08/06  
流星に放置は草はえる

名前?知らない子ですね:20XX/08/06

1

名前?知らない子ですね:20XX/08/06

1

名前?知らない子ですね:20XX/08/06

1

名前?知らない子ですね:20XX/08/06

1

名前？知らない子ですね：20XX／08／06  
満場一致ですって、すごいわね

名前？知らない子ですね：20XX／08／06  
加賀さんに乱暴する気でしょ！エロ同人みたいに！

1：20XX／08／06  
しねーよ。やっても仲直りエッチまでだよ

名前？知らない子ですね：20XX／08／06  
やっぱりする気じゃないか（呆れ）

それからしばらくして、加賀は赤城を恐れなくなった。  
ケン提督がそれについて水を向けると真っ赤になって言いよどむ  
ので、彼はとりあえずそれ以上は聞かないようにした。

とりあえず仲が良くなったようで良かった、と。

真実を知っているのは赤城と加賀のみである。

ついでに言うと、加賀はずいぶんと純情な人物だったようだ。

## 【速報】 赤城氏、後輩ができる

艦娘というものは二種類存在する。

まずは純艦娘と呼ばれる存在。彼女は体や身に付けている物のすべてが霊体で出来ており、簡単に言うならば「ある程度神格化した触れる幽霊」である。神格化されているためか分霊を作ることができ、例え滅ぼされても再び召ぶことは難しくない。

ただし、この場合の艦娘は例えるならゲームディスクとセーブデータであり、分霊の元があり続ける限りはセーブデータを作ることが出来るが、一度消えてしまったデータ（艦娘）を再び元の状態に戻すことはできない。

それに主人公がランダムで作られるような個人差というものも確認されている。そのため稀にとんでもなく精強な存在や問題児が生まれることがある。今埠頭で黄昏ている赤城がその代表たる存在だ。

次に半艦娘と呼ばれる存在。体のほとんどはただの人間と変わらないが体の一部、特に目や心臓、頭に強い霊体が発現することが多く、絶妙なバランスで人間と霊との間を保っている「生きているが死んでもいる存在」だ。

彼女たちは二次成長期が訪れる前後から急激に成長が遅くなり、見た目が中学生なのに二十歳を超えているという事もある。

半艦娘である者は軍属への道が用意されているが拒否することも出来る。しかし拒否せずに軍属につけば今の日本にとって破格の待遇が待っていた。

赤城の背中を追ってきた吹雪は軍属への道を進んだ一人だ。

「赤城さんー」

吹雪は赤城に向かって大きく叫んだ。埠頭で黄昏ていた彼女は吹雪の憧れの先輩であり、右も左もわからない吹雪にとっても親切にしてくれた。

それに話してみると意外と危なっかしくていつもフワフワとしている。そんな彼女が心配で、ベツタリくっついてるのが吹雪のいつもの場所になってしまった。



赤城はそんな彼女を好ましく思っているのか、いつもニコリとしていてたまにお菓子をくれる。

「どうしました、吹雪さん？」

そんな彼女は埠頭でカップアイスを口の周りを汚しながら食べていた。

台無しである。

1 : 20XX / 09 / 22

なんか吹雪っていう可愛い後輩が出来た。駆逐艦だってさ

名前を入力してください : 20XX / 09 / 22

あら可愛い

名前を入力してください : 20XX / 09 / 22

ええやん、気に入ったわ。(撃破数) なんぼなん？

1 : 20XX / 09 / 22

えーこちら撃破数0となっております

名前を入力してください : 20XX / 09 / 22

ゼロ!?!うせやろ？

1 : 20XX / 09 / 22

まじ

演習も実戦もしたことないペーペーの素人らしい

名前を入力してください : 20XX / 09 / 22

おれらの撃破数はどれくらいでしたか : (小声)

1 : 2 0 X X / 0 9 / 2 2

艦載機ふくめないで言うと

空母 3

戦艦 2

巡洋艦 7

駆逐 3 3

だったと思う

名前を入力してください : 2 0 X X / 0 9 / 2 2

貢献してますねえ!

名前を入力してください : 2 0 X X / 0 9 / 2 2

まあ他の空母は俺らみたいなの飼ってないらしいな

名前を入力してください : 2 0 X X / 0 9 / 2 2

それマジ? じゃあどうやって艦載機運用してるんだよ

名前を入力してください : 2 0 X X / 0 9 / 2 2

全部マニュアルとかじゃないんですかね

名前を入力してください : 2 0 X X / 0 9 / 2 2

あかんこれじゃ忙しくて死ぬう

名前を入力してください : 2 0 X X / 0 9 / 2 2

実際出撃後の加賀さんはぐったりしてますし

1 : 2 0 X X / 0 9 / 2 2

それより後輩ちゃんが犬みたいで可愛いんですけど  
とりま安価で可愛がってやろう

← 3

名前を入力してください：20XX/09/22  
相撲部屋かな？

名前を入力してください：20XX/09/22  
三回だよ三回

名前を入力してください：20XX/09/22  
一緒にアイス食べる

名前を入力してください：20XX/09/22  
ほっぺたつつく

名前を入力してください：20XX/09/22  
この加賀さんの安価の差はなんですかね：

名前を入力してください：20XX/09/22  
こいつらはロリコン、はっきりわかんかね

1：20XX/09/22  
こんなこともあるかとお菓子はいつも携帯してるんだ

名前を入力してください：20XX/09/22  
ブツキー！あつたよアイスが！

名前を入力してください：20XX/09/22  
でかした！

「一緒に夕日を眺めませんか？」

吹雪は赤城の提案に面喰った。夕方のこの時間になると必ずと言っていいほど食堂前でソワソワしている彼女がそんなことを言ったのだから。

そもそも吹雪が赤城を探しに来たのも夕食の時間が近づいているからで、夕日を見に来た訳では無い。

でも憧れの先輩の言葉を断ることも出来ず、吹雪は赤城の隣に腰を下ろした。

「むぐ……むぐ……」

さざ波の音と共にアイスを食べる音だけが響く。甘いモノが食べたくなってきたなあと赤城を見た吹雪の前には彼女が食べているカップアイスと同じものが目の前に差し出されていた。

「いかがですか？」

「えつと……その……？」

「欲張って沢山買っちゃったんですけど、食べきれなくて」

（絶対嘘だ……）

吹雪は嘘だと思いながらカップアイスを受け取った。吹雪にとって赤城とは控えめに言って食欲魔神である。そんな彼女が食べきれないとかの理由で他人におすすそ分けするとは思えない。

カップアイスを握ったまま赤城の顔を覗いてみるとまた海を見ながらアイスを食べていた。

ため息を吐きながらカップアイスを一口食べる。口のなかに少し溶けたバニラの味が広がった。

「赤城さんって不思議な人だなあ」

「何よ藪から棒に」

夕食を終えて自分に当てられた部屋でゆっくりしている時のつばやきがルームメイトの叢雲に届いてしまった事にしまったと思いな

がら今日の事を話した。

「どうりで食の進みが悪かったわけね。それと赤城さんはアイス食べた後であれだけ食べたワケなの？」

ハアーと叢雲がため息を吐いた。赤城が食べているカップアイスとは容量500mlの大容量タイプである。これはお湯を入れたカップ麺と同量のサイズだと思えばその大きさがよく分かるだろう。

そして吹雪が埠頭に座った時には既に空の容器が少なくとも5つは転がっていた。それを食べた後でどんぶり三回おかわりしてしかもデザートのイチゴパフェまで食べているとなるともう怪人である。

「そりゃ不思議よね。胃袋が宇宙にでもつながってんじゃないの？」

「いや、それもビツクリなんだけどもつと何というか……他の人と違うって言うか……」

「？ 何が言いたいなのよ」

「わかんない」

「何よソレ」

叢雲が吹雪の要領を得ない問答に辟易しているとノックの音が響いた。

「吹雪はーん、おるかー？」

1 : 20XX / 09 / 22

こちらスネーク。吹雪と仲のいい叢雲と接触するため駆逐艦寮に潜入した

これより吹雪の部屋を目指す

名前を入力してくだち : 20XX / 09 / 22

さす蛇

名前を入力してください：20XX／09／22  
円滑な人間関係を構築する先輩の鑑

1：20XX／09／22

しかしさつきからチラチラ見られてるような気がするんだけど

名前を入力してください：20XX／09／22

そら（ダンボール被った誰かが寮内を徘徊していると）そう（なる）  
よ

名前を入力してください：20XX／09／22

何!?ダンボールを被れば見つからないのではないのか!?

1：20XX／09／22

こちらスネーク。吹雪の部屋の前に到着した。

大佐！指示をくれ！

名前を入力してください：20XX／09／22

突入しろ

名前を入力してください：20XX／09／22

普通に入れ

名前を入力してください：20XX／09／22

ここは他の艦娘の声を使うってのはどうだ？

名前を入力してください：20XX／09／22

ルパン乙

名前を入力してください：20XX／09／22

声似てる駆逐の声：陽炎とか黒潮か？  
不知火は……ナオキです

1：20XX／09／22

不知火はなんか怖いからね、仕方ないね  
これは後でバレても許してくれそうな黒潮で許してヒヤシンス

聞こえてきたのは黒潮の声。部屋の二人は顔を合わせた後吹雪が  
ドアの前まで行った。

「はい、いますよー黒潮さん今開けますね」

「黒潮ちやうで」

「……へ？」

吹雪が驚きで固まっている間にドアが開いた。そこにいたのは二  
コニコとした赤城だった。

彼女は懐からトランプや携帯ゲーム機の類を取り出して、  
「さあお二方！今から一緒に遊んで親睦を深めましょう！」

そう言い放った。

ダンボールを被ってここまでやってきていた赤城はただそれだけ  
でも注目を浴びていたのにここにきて変な発言を行った。それは駆

逐艦たちから「赤城さんは変人」とレッテルを貼られるには十分の出来事だった。

ちなみにこのあと何だかんだ言いながらも付き合ってくれた叢雲と吹雪の三人でゲームをして親睦を深めたとかなんとか。

なおこの後ゲームに熱中しすぎて大淀にお叱りを受けたのだがそれはまた別の話。



## 【悲報】 赤城、痴女

1 : 20XX / 10 / 11

10月11日の昼二時ごろ、赤城が痴女であるという噂話が赤城の耳に入る事件があった。

噂話の発端は赤城が提督の手を意図的に胸に導いたことであり、その他には「裸でベッドで飛び跳ねているのを見た」「おっぱいの大きな艦娘を見つけると顔を埋めている」などという目撃証言によつて徐々に大きくなりつつある。

赤城はお前らのせいだと断定して調査に当たる模様。

名無しさん@淑女 : 20XX / 10 / 11

え、なにそれは

名無しさん@淑女 : 20XX / 10 / 11

最初の提督抹殺陰謀以外は知りませんねえ：

名無しさん@淑女 : 20XX / 10 / 11

噂に背びれ尾ひれがつきすぎている

1 : 20XX / 10 / 11

みんなには言っていなかったけど俺が寝てる間は体を自由に動かせ  
ちやうんだよなあ：

先生怒らないからやった人出てきなさい

名無しさん@淑女 : 20XX / 10 / 11

1が居ない間に体を自由に：！？（驚愕）動かして：！？（嫉妬）

名無しさん@淑女 : 20XX / 10 / 11

多分変態だと思っただけです

名無しさん@淑女：20XX/10/11  
そんな美味しい話あったらみんなこぞって体動かしちゃうと思うんですけど

公開しちゃってよかったんですかね？

1：20XX/10/11

複数人で動かそうとすると逆にうまく動けなくなるから安心！

犯人出てきなさいーい 先生怒っちゃうぞー

名無しさん@淑女：20XX/10/11

加賀さんのおっぱいに顔を埋めたんは出来心やったんや

すまん、本当にすまん

名無しさん@淑女：20XX/10/11

ベッドが柔らかくて変なテンションになってユートピアしました

…(小声)

名無しさん@淑女：20XX/10/11

夜中に提督の寝室に忍び込んでパロスペシャル決めちゃったけど

許してヒヤシンス

名無しさん@淑女：20XX/10/11

夜中に抜け出して間宮さんにアイス貰っちゃいました

おいしかったです

名無しさん@淑女：20XX/10/11

下着姿でランニングしました

サイコーに良かったです

名無しさん@淑女：20XX/10/11

オロナミンCに生卵入れて飲みました…

名無しさん@淑女：20XX／10／11  
川内と夜戦演習したのすげえ楽しかったゾ

名無しさん@淑女：20XX／10／11

チヨロQの後ろに10円じゃなくて500円無理やり突っ込みま  
した……

名無しさん@淑女：20XX／10／11

魔法剣エーテルちやぶ台返して寝言叫んで吹雪笑わせました

名無しさん@淑女：20XX／10／11

暁ちゃんに毒チワワっていう架空の生物の怖い話したわ

名無しさん@淑女：20XX／10／11

提督のおやつのチヨコをカレーのルーと入れ替えたゾイ

名無しさん@淑女：20XX／10／11

とねちやまのカタパルトをオーバーホールしました……

名無しさん@淑女：20XX／10／11

w w w w w w w w

名無しさん@淑女：20XX／10／11

いろいろな爆弾発言が飛び交いましたねえ……

名無しさん@淑女：20XX／10／11

こっそりってレベルじゃねーぞ！

1：20XX／10／11

名無しさん@淑女：20XX/10/11  
大変！1が息して無いの！

名無しさん@淑女：20XX/10/11  
残念ですが手遅れですな

名無しさん@淑女：20XX/10/11  
今だったら赤城さんの体使い放題（意味深）じゃね

名無しさん@淑女：20XX/10/11  
でも複数で動かそうとするとダメだって1が言ってたぞ

名無しさん@淑女：20XX/10/11  
安価取った奴が動かせばいいじゃん  
一人十分くらいで安価取った奴が再安価でよくね  
とりま←10

名無しさん@淑女：20XX/10/11  
人は過ちを繰り返す

赤城とは変人である。

これは鎮守府に所属する艦娘たちの共通認識だ。頭が悪い訳では無い、素行が悪い訳では無い、頼りない訳でも無い。むしろ頭は良いし素行もそこそ良いし頼りがいも割とあるいい人なのだが悲しい

くらいに常識が足りなかったのだ。

「あれ？」

「ん？どつたのブツキー」

「さっきまで赤城さんってベンチで寝てたはずなのに、ほら見て」  
「ファッ!?なんぞこれ！」

吹雪と漣は先ほどまで居眠りしていた赤城が飛行甲板をスケボー代わりにして鎮守府のグラウンドを爆走していた。その滑らかな動きからローラーで滑っているという訳では無さそうだ。

赤城は吹雪と漣に気が付くことなくそのまま走り去って行った。彼女が走り去った後に数機のゼロ戦が続いて、そして落ち葉が舞った。

「うわあ……」

そして後輩の引いた声がほんのり響いたという。

名無しさん@淑女：20XX/10/11

あーさっぱりした

名無しさん@淑女：20XX/10/11

飛行甲板にゼロくっつけて飛ぶとか革命ですよこれ

名無しさん@淑女：20XX/10/11

空中移動空母完成の瞬間であった。

名無しさん@淑女：20XX/10/11

上に赤城乗ってたら着艦できないし甲板だけ浮いても爆弾とか補給できませんよね

名無しさん@淑女：20XX/10/11

アメリカくんも攻撃能力のないフライングパンケーキとか作ってるし多少はね？

名無しさん@淑女：20XX／10／11

これもう基地自身に動力つけられればいいんじゃない？

名無しさん@淑女：20XX／10／11

移動できる基地が空母なんですけどそれは

名無しさん@淑女：20XX／10／11

よーしどんどん安価いこう

←5

名無しさん@淑女：20XX／10／11

飛行甲板にカタパルトつけて終わりでいいんじゃない？

名無しさん@淑女：20XX／10／11

？

まあ普通だわな。普通に発艦できるから付ける意味がわからんけど

名無しさん@淑女：20XX／10／11

ちがうよ。飛行機じゃなくて甲板飛ばすんだよ

名無しさん@淑女：20XX／10／11

えっ？

1：20XX／10／11

話は聞かせてもらった！

鎮守府は滅亡する！

名無しさん@淑女：20XX／10／11  
ΩΩΩへry

名無しさん@淑女：20XX／10／11  
チツ：寝てればいいものを

1：20XX／10／11

というわけでロケット飛行甲板の設計図書いたぞい  
あと舌打ちした奴スレ主権限でボイラー行な

「添付 設計図」

名無しさん@淑女：20XX／10／11  
アツウイ！

あと仕事早すぎませんかね

名無しさん@淑女：20XX／10／11  
ボイラーは嫌だボイラーは嫌だボイラーは嫌だ

名無しさん@淑女：20XX／10／11  
グ

名無しさん@淑女：20XX／10／11  
リ

名無しさん@淑女：20XX／10／11  
フ

名無しさん@淑女：20XX／10／11  
イ

名無しさん@淑女：20XX／10／11

ン

名無しさん@淑女：20XX／10／11

ド

名無しさん@淑女：20XX／10／11

一

名無しさん@淑女：20XX／10／11

完成

名無しさん@淑女：20XX／10／11

コマンドーかな？

名無しさん@淑女：20XX／10／11

草

赤城が通りすぎた後、なんというか何とも言えない空気が漂った。

吹雪は「これさえなかったら良い人なんだけどなあ」と諦めたような言葉を漏らしたが、一方漣は「なんかすごくね!？」と興奮している。

この温度差になんだかなあ…と吹雪が思っていると頭にポンと手を置かれた。

「あ、司令官!」

「やあ、何かあったみたいだけどどうしたんだ？」

「実は…」

突然現れたケン提督に吹雪は先ほどすっ飛んで行った赤城について話した。すると提督は「またか…」と頭を抱え何ともいえない顔をする。



「『また』？先日も何かあったんですか？」

「ああうん…なんだか知らないけど急に関節技とかプロレス技を食らったよ。恨まれるようなことしたかな…」

「ええー…」

赤城のそんな噂を聞いたこともない吹雪はドン引きである。ある意味で言えばケン提督はこの鎮守府における唯一の男性であるからちよっかいを掛けるということは好きな異性にイタズラしちゃう系のアレなのかなど思ったが色気より食い気な赤城の姿を思い出して吹雪は静かに頭を振った。

「ぬわーっ!?!」

その瞬間漣が興奮したように叫ぶ。何事かとケン提督と吹雪がグラウンドを見るとなぜか飛行甲板だけが凄い勢いで飛んでいった。

「は?」

二人の声が重なる。先ほど飛んで行った飛行甲板を追いかけるように赤城が現れて「威力ミスりました!」などとのたまいながら走って行くのはシユールの極みだった。

【新規】 ミスター提督について語るスレPart15  
98 【歓迎】

名無し改二：20XX／12／03  
気づいたらPart1600間近か  
長かったようなあつという間だったような

名無し改二：20XX／12／03  
まだ続いてたのか糞パートスレ  
さっさと終れ糞パートスレ

名無し改二：20XX／12／03  
吸血鬼だ！吸血鬼がいるぞ！

名無し改二：20XX／12／03  
がああああああ！

1：20XX／12／03

おい：待てよ

今までこんなスレあったのか…？皆騙されてるんじゃないのか…？

名無し改二：20XX／12／03  
1600も近いのに何いってだこいつ

名無し改二：20XX／12／03  
ずっとあつただろ？

名無し改二：20XX／12／03  
ケン提督の性癖も洗いざらい語られた事だし語ること無いんじゃないや

ね

1 : 20XX / 12 / 03

ちよつと待って性癖について詳しく

名無し改二 : 20XX / 12 / 03

しょうがねえなく (悟空)

あいつこつそりエロ本持ってたよな、しかも全部巨乳本。

やつの寝室の座布団下に健全グラビアあるけどダメーだから。

ちゃんと屋根裏も見ろよ見ろよ

名無し改二 : 20XX / 12 / 03

なんでそんな所探したんですかね…？

名無し改二 : 20XX / 12 / 03

そりや川内とニンジャごっこしてたからに決まってんじゃん

あ、そうだ (唐突) そのエロ本は川内の目に触れないように赤城専用冷蔵庫に保管してあるから

1 : 20XX / 12 / 03

よりによって冷蔵庫とかアイスの匂い染み付きそう

名無し改二 : 20XX / 12 / 03

むせる

名無し改二 : 20XX / 12 / 03

エロ本開示はよ、はよ

名無し改二 : 20XX / 12 / 03

ほらよ

「添付 圧縮ファイル」

名無し改二：20XX／12／03  
こ、これは…

名無し改二：20XX／12／03  
みごとにおっぱいばかりですな…

1：20XX／12／03

ええ：（困惑）俺似の黒ロングおっぱいばかりって反応に困るんですけど（正論）

名無し改二：20XX／12／03

これって提督に胸押し付けたから目覚めちゃったんじゃないんですかね

名無し改二：20XX／12／03

初心な男子を弄ぶ黒ロング隠れ巨乳正規空母艦娘が居るらしい

（やばいやばいやばい！）

ケン提督は焦っていた。それは何も深刻な事件が起きた等の事ではなく、お宝エロ本が全て消失していたという何とも間抜けな出来事だ。

（あれがもし赤城にでも見つかったら死ぬぞ…！）

そう、真面目一辺倒な提督が初めて強く意識した女性は胸に触れた、むしろ揉ませられた赤城だったのだ。なんとというか暇な時間ができると赤城の事で頭がもやもやするし、似た姿の人物が居るとつい目で追ってしまうほどには純粹な人物だったのだ。

そして純粹ゆえに似たもので発散しようとして、そしてやらかしたのだ。

そういえば隠してたアレばれてないよな…といった後ろめたい気持ちで屋根裏を覗いたのが運の尽き、忽然と姿を消した成年向け冊子を探して鎮守府の中を探し回っていた。

それでも成果は無く、最終的にケン提督は最初に思いついたが最後まで行きたくなかつた赤城の部屋の前にまで足取り重くやってきた。

「赤城、ちよつといいか？」

返事は無い。少し強めにノックして再び問いかけても返事はない。出かけているのかと思いつながらもノブを捻ると何の抵抗もなくドアは開いた。

「赤城…？」

少しだけ開いたドアから中を覗く提督。そこには顔を真っ赤にしてエロ本をガン観している赤城の姿があった。っていうかそれは提督のエロ本だった。

ケン提督は全てを諦めたようにフ…と息を吐く。今にも死にたくなるほど恥ずかしかった。

1 : 20XX / 12 / 03

冷蔵庫にマジでエロ本あったは

エロすぎてやばい

名無し改二 : 20XX / 12 / 03

こんなすごいプレイとかあるのか…( )

名無し改二 : 20XX / 12 / 03

あへえ！おほお！

名無し改二 : 20XX / 12 / 03

対魔忍やめろ

名無し改二：20XX／12／03  
ちよつとまつて！髪でとかうせやろ！？

名無し改二：20XX／12／03  
こんなプレイの仕方があるか

名無し改二：20XX／12／03  
良く見たらほとんど純愛ものですね…

名無し改二：20XX／12／03  
電探に反応あるでち

1：20XX／12／03  
どこから？

名無し改二：20XX／12／03  
前方2メートルでちよ

名無し改二：20XX／12／03  
無能

1：20XX／12／03  
無能

名無し改二：20XX／12／03  
無能

赤城ががばと顔を上げた。真っ赤な顔が提督を正面に捉える。

「て、提督！」

「や…やあ」

赤城の非難するような呼びかけに提督は曖昧な笑みしか返せなかった。赤城はバンと手を付いて立ち上がると提督に向かってガツガツと足音を立てながら歩いていく。

(これは殴られるかな)

ケン提督はそれを甘んじて受け入れようと思って自然体で目を瞑った。しかし衝撃は無く、柔らかな手で自分の手が包まれた感触があった。

「素晴らしいエロスです！やはり人の発想力は凄いですね!!」

なぜか褒められた。驚きで目を見開くと満面の笑みの赤城が目に入る。そして提督は気付いた。赤城の顔が赤いのは恥ずかしいのではなくただ単に興奮していただけなのだ。

なんとというか微塵も意識されてない事に少しだけ寂しさを覚えたが、嫌われるよりはましかなと提督は愛想笑いをするのであった。

そして後日ケン提督は思い出す。そういえば彼女はみんなから痴女認定されてたな、と。

## 【祝え】今日は提督のお誕生日です

今日はケン提督の誕生日。

……といっても特別な何かがある日ではない。ささやかなおめでとう会と艦娘の個人的なプレゼント贈答がある程度のほんのちよつぷり浮かれている日だ。

提督だって男なのでかわいい艦娘達からプレゼントを貰えれば嬉しいし、何もくれなかつたらちよびつと落ち込む。

真面目そうな見た目のくせして面白お姉さん枠の大淀から。普段からちよつとツン気味な加賀から。新入りだけど苦労人気質の吹雪から。いつも何を考えているのかわからない漣から。ツンデレの見本市の叢雲から。その他にもたくさん艦娘からプレゼントを貰った提督はそれでも落ち込んでいた。

それは今隣で秘書の仕事をしてきている赤城から何も貰えなかつたからである。

ケン提督がプレゼントを貰うたびに「わあ、すごいですね」「流石は人気者のケン提督です」などと褒めては貰えるものの、プレゼントを渡してくれる気配はない。

声を掛けられる度に落ち込んでいく提督を見て赤城は苦笑いをするだけだ。

期待するだけ無駄だったのかな…と遠くを見る提督。彼の頭の中では赤城との思い出が上映されていた。

胸に手を押し付けられた事…。パロスペシャルを極められた事…。おやつチョコをカレールーにすり替えられた事…。エロ本の趣味に全力で理解を示された事…。

あ、ロクな思い出が無いやと提督は上映会を中止した。

なんでこんな変人の痴女なんか気になってるんだろうかと自嘲気味にため息を吐く。

ちらりと時計を見やる。時刻は夜も更けて11時50分。提督の誕生日ももう終わりだ。



ワンチャンないかな…と彼女を見ると、ばつちりと目が合った。

「提督」

その一言で彼の体は硬直。赤城は照れるようなそぶりを見せた後、どこから取り出したのか大きなプレゼントボックスを提督に差し出す。

「正直、何を渡そうか迷ったのですが…ぜひ、受け取ってください」

提督は理解した。

彼の心の中で天使が踊り狂いながらジェリコのラッパを響かせ、流れ星が荒れ狂う稲光のように押し寄せ、盆と正月がブレイクダンスを踊った。

「ちよつと恥ずかしいので、開けるのは自分の部屋でお願いしますね？」

小首をかしげながらニコリと笑う赤城。

それを見た提督は胸の鼓動を抑えることができない。彼は自分が恋に落ちているのだと強く実感した。

1：20XX／12／20

今日は提督のお誕生日です

おめでとうございます

「添付 コラ画像」

名無しスペシャル：20XX／12／20

こいついつも祝ってんな

名無しスペシャル：20XX／12／20  
申し訳ないが雑コラはNG

名無しスペシャル：20XX／12／20  
誕生日プレゼントもう決めた？

1：20XX／12／20

決めてない。アへ顔総集編とラブラブエッチ本のどっちにしよう  
か

早く決めないと提督の心こわれちゃう

「添付 アへ顔本」

「添付 イチャイチャ本」

名無しスペシャル：20XX／12／20

芋系美女はスケベなことしか考えないのか（偏見）

名無しスペシャル：20XX／12／20

おっ、待てい（涼風っ子）

まだ肝心な本忘れてるゾ

「添付 トロ顔ドスケベ本」

「添付 触手ドスケベ本」

「添付 名伏し難きドスケベ本」

名無しスペシャル：20XX／12／20

エロ本は確定なんですネ

名無しスペシャル：20XX／12／20

何プレゼントしたらいいかこれもうわかんねえな  
お前どう？

名無しスペシャル：20XX／12／20

んまあ、そう…どれ選べばいいかわかんなかったです

名無しスペシャル：20XX／12／20  
だが待つてほしい。どれかに絞る必要はあるのか？

1：20XX／12／20  
と、いいますと？

名無しスペシャル：20XX／12／20  
プレゼント…それも一冊や二冊ではない…  
全部だ！

1：20XX／12／20  
なんと…！やはり天才じゃったか…！

名無しスペシャル：20XX／12／20  
流石ケン王様  
強欲でいらっしやる…

名無しスペシャル：20XX／12／20  
ケン提督だけに

1：20XX／12／20  
もう日付変わりそうじゃんアゼルバイジャン  
今から取りに行つてたら今日に間に合わない

名無しスペシャル：20XX／12／20  
時既に時間切れ

彩雲01：20XX／12／20  
チワーマカワヤデース

こんなこともあるかどワイが持つてきてやったぞ

名無しスペシャル：20XX／12／20  
来た！彩雲きた！

名無しスペシャル：20XX／12／20  
メイン彩雲きた！

1：20XX／12／20

これで勝つる！

ところでこれどうやって渡そう？

安価←3

名無しスペシャル：20XX／12／20  
痴女っぽく

名無しスペシャル：20XX／12／20  
ドスケベ

清楚マン：20XX／12／20  
清楚！清楚です！

名無しスペシャル：20XX／12／20  
淫ピ風

名無しスペシャル：20XX／12／20  
舌なめずりしながら

名無しスペシャル：20XX／12／20  
清楚マンしゅごい

名無しスペシャル：20XX／12／20  
おっp…おっぱげた…！

清楚マン：20XX／12／20  
やったああああ!!!優勝した!!!11

1：20XX／12／20

▽清楚マン

おめえなかなか…いい安価してんじやねえか  
じゃあ俺の清楚パワー見たけりや見せてやるよ（自慢げ）

名無しスペシャル：20XX／12／20  
赤面してえ！

名無しスペシャル：20XX／12／20  
首傾げてえ！

名無しスペシャル：20XX／12／20  
ニツコリ笑ってえ！

名無しスペシャル：20XX／12／20  
まだ入るう！

名無しスペシャル：20XX／12／20  
突然のウメハラはだな…

名無しスペシャル：20XX／12／20  
※ウメハラは何も喋っていません

名無しスペシャル：20XX／12／20  
清楚っぽくプレゼントボックス渡してるけどこれってエロ本渡し

てるだけなのよね…

名無しスペシャル：20XX／12／20  
言われてみればその通りで草

「あれ？提督、どうしたんですか？」

次の日の朝。吹雪はケン提督を見つけた。その背中は煤けており、覇気といったものがまるで感じられない。

「なあ、吹雪」

「なんででしょう」

吹雪は心配げに提督の顔を見上げる。そこには諦観したような男の顔があつた。

彼は話すべきなのか少し迷ったように視線を彷徨させた後、乾いた唇をゆっくりと開く。

「俺ってエロいのが大好きに見えるのか…？」

「ええっ!？」

その後吹雪がどう答えたのかは彼女自身も憶えていない。ただ、また赤城さんがやらかしたんだらうなあという漠然としたイメージだけは頭の片隅に残っていた。

## 【演習】 作戦会議スレ

1 : 20XY / 01 / 13

えー正規空母の赤城です (半ギレ)

最近航空戦になると強い奴がマークされてあつという間に総崩れになるので作戦会議をすることにしました (全ギレ)

名無しのエース : 20XY / 01 / 13

メビウス兄貴が強すぎるからね、しようがないね

名無しのエース : 20XY / 01 / 13

リボン付きは所詮先の時代の敗北者じゃけエ

メビウス : 20XY / 01 / 13

ハア : ハア : 敗北者 : ?

名無しのエース : 20XY / 01 / 13

乗るなエース!!

1 : 20XY / 01 / 13

1対5を作り出されるとか完全に無理ゲーなんだよなあ  
相手の連携がヤバすぎる

名無しのエース : 20XY / 01 / 13

個々の技量は高くても連携がとれてなきやだめだわ

これは意外な弱点ですね (解析)

名無しのエース : 20XY / 01 / 13

戦局を見るための指令機や偵察機が必要であることを意味して  
いますよね (総当たりの裏技)

彩雲01:20XY/01/13

俺も完全にマークされてるんだよなあ…

名無しのエース:20XY/01/13

つみです

名無しのエース:20XY/01/13

そもそも加賀さんの技量のやばさよ

伊達に大きなおっぱいぶら下げてませんね…

名無しのエース:20XY/01/13

おっぱいの大きさは関係ないだろ！いい加減にしろ！

名無しのエース:20XY/01/13

ところでロケット飛行甲板の実用性はいかに

1:20XY/01/13

糞だよ糞。ハハハ…

実際のところは深海棲艦を一撃で粉碎できるオットジヨブハット  
並みの威力あるので演習では使用禁止です

名無しのエース:20XY/01/13

ツヨオイ！

名無しのエース:20XY/01/13

もう（艦載機いら）ないじゃん

名無しのエース:20XY/01/13

5万パイルかな？

1:20XY/01/13



というわけで最近負けそうになることが多いからどげんかせんといかん

なんかいい案ある？

名無しのエース：20XY／01／13

ちよつと聞きたいんだけどもしかしてメビウス兄貴ってなんかわかりやすいペイントしてない？

名無しのエース：20XY／01／13

メビウスだ二度と間違えるなよくそが

メビウスの輪を描いてたよな確か

名無しのエース：20XY／01／13

かわいいね（皐月）パーソナルマーク消して？

メビウス：20XY／01／13

嫌です：

彩雲01：20XY／01／13

私にいい考えがある

名無しのエース：20XY／01／13

最終的に大失敗しそう（こなみ）

加賀は岩礁の多い演習場でただ静かに佇んでいた。

演習相手はあの赤城。艦載機の個々の運用であれば右に出る者の

いないほどの彼女相手に一片の油断もままならないと彼女はひたすらに集中して艦載機を操っている。

様々な戦法を繰り返すうちに加賀は赤城の艦載機の運用に癖があることに気が付いたのだ。

それは一部の『お気に入り』：つまり『エース』を用意しているという事だ。彼女の戦法はまずエース以外で戦闘に持ち込み、全体がぶつかり合った所でエースが敵を食いにかかるというもの。しかしこのエースが食わせ物で、レシプロ機であることを忘れさせるほどに強烈なターンを決めるのだ。一撃離脱はもとより、ドッグファイトに持ち込まれても万が一にも勝ち目はない。しかしお気に入りという事で分かりやすい印を付けられていることにもまた気が付いた。

エンジン付近にリボンのマークが描かれているのだ。

そこで思いついたのが徹底的なマーク戦法である。リボンの付いたエースに常に5機以上で当たらせ、一撃離脱もドッグファイトもさせずに追い込むのだ。

しかしそこは流石の赤城。いくらエース戦法を使っているとんでも他の艦載機が烏合の衆という訳ではない。その一機一機が高い技量を持った準エース級。

未だ加賀は赤城を降せてはいない。だが今日こそは：と加賀の胸中は静かに燃えていた。

「いやあく加賀さんも赤城さん相手によくやりますねえ」

そう言ったのは護衛として付いている漣だ。さらにその隣に居た吹雪も同意するようにコクコクと頷いた。

「勝ち筋は見えているわ。それに、負け続けるのは趣味じゃありませんから」

それに毅然とした態度で返す加賀。そんな彼女を見て漣と吹雪は顔を合わせて笑った。

普段は仲良くしてくせに演習となれば大人げないんだから：と吹雪が内心想っていると、空に小さな影を見つけた。どうやら赤城の艦載機のようなようだ。

敵機発見と報告をしながら双眼鏡を覗く。その覗いた先には皆一

様のペイントがされた航空戦力がずらり。

「えっ!？」

「どったのブッキー。もうリボン付き見つけた？」

「う、うん。見つけちゃったけど……」

吹雪は慌てながら航空戦力を見比べる。

あれも。これも。見渡す限り全部。

「敵は全部リボン付きですっ!!」

それは絶望の叫びだった。

メビウス：20XY／01／13

メビウス1 エンゲージ

メビウス：20XY／01／13

メビウス32 FOX3

メビウス：20XY／01／13

メビウス29 敵機撃墜

メビウス：20XY／01／13

メビウス8 ダメージを受けた、一度帰艦する

名無しのエース：20XY／01／13

あかんこのままやとメビウス兄貴が忙しくて死ぬウ

名無しのエース：20XY／01／13

(俺らが疲れたことなんてありませんでしたか……?)

名無しのエース：20XY／01／13

(ありませんでした……)

1：20XY／01／13

勝ったな！ガハハ！

彩雲01：20XY／01／13

メビウスの変態軌道こわいなー戸締りしとこ

名無しのエース：20XY／01／13

ところでなんでメビウス兄貴分裂してんの？教えて彩雲兄貴！

彩雲01：20XY／01／13

俺らって赤城って神性の分霊じゃん？

ということは俺らって神性じゃん？

つまり分霊もつくれるって事じゃん？

名無しのエース：20XY／01／13

分霊の分霊とかこれもうわかんねえな

名無しのエース：20XY／01／13

俺らはギンブナとか単細胞生物かなにか？

名無しのエース：20XY／01／13

病気に罹ったら一撃で全滅しそう○

名無しのエース：20XY／01／13

おまえらぜってえGよりしづといゾ

俺は詳しいんだ

モビウス：20XY/01/13  
オメガ11イジェクト

1：20XY/01/13  
おっ待てい不良品混ざってるゾ

名無しのエース：20XY/01/13  
やっぱりな♂

## 【安価】 加賀さんを慰めるスレ

加賀は落ち込んでいた。

勝機を見出した戦法がまるで役に立たず、真つ向から力でねじ伏せられた演習から一週間以上が経った今日。彼女の心は未だに雨模様だ。

全ての艦載機をエース機にできるのならば、なぜこの間までわざわざ出し渋る真似をしていたのか。真意のほどは分からないが、加賀はそれを赤城の手加減だと解釈していた。

いわば相手は将棋で飛車角を抜いて戦っていたような状態だ。そんな相手を追い込んで喜んでいたなんて…と。加賀は自らの浅慮をひどく恥じていた。

もとから悲観的なきらいがある加賀は勝手に想像して勝手に落ち込んで、を繰り返す。

吹雪や漣もそれを心配して声を掛けるものの、その言葉はどこか上滑りしていくよう。

赤城に追いつきたい。肩を並べたい。でもそんな背中が遠い…。加賀は布団で横になったまま何度目かもわからないため息を吐いた。

「加賀はーん、起きとりますかー？」

トントンと戸を叩く音と黒潮の声。加賀は寝たことにしようかと一瞬考えたが、不誠実な態度は駄目だと自分を律して立ち上がることにした。

1:20XY/01/22

なんかこの前の演習から加賀さんがまたよそよそしい（駆逐艦情

報)

じゃけん安価しちやいましょうね

← 5

ガーリツシユ名無し：20XY/01/22

メビウス兄貴がボコボコにした日ですね(白目)

ガーリツシユ名無し：20XY/01/22

そら(あんだだけタコ殴りにすれば)そう(なる)よ

ガーリツシユ名無し：20XY/01/22

比較的オーソドックスなSMプレイ

ガーリツシユ名無し：20XY/01/22

コブラツイスト

ガーリツシユ名無し：20XY/01/22

四の字固め

清楚マン：20XY/01/22

お茶会

ガーリツシユ名無し：20XY/01/22

∨四の字固め

あのさあ…

ガーリツシユ名無し：20XY/01/22

∨清楚マン

外してんじやねえよバアカ!

ガーリツシユ名無し：20XY/01/22

お前らは加賀さんに恨みでもあんのか…？

ガーリツシユ名無し：20XY／01／22  
唐突な当たり前の暴力

1：20XY／01／22  
乗るしかない 加賀さんのビッグウェーブに

ガーリツシユ名無し：20XY／01／22  
言い方ア！

加賀が戸を開けた先には黒潮は居らず、待ち構えていたのは赤城だった。

「失礼します」

「えっ…!?!」

一瞬で組み付かれて布団に押し倒され、足を四の字に固められる。いつか腕を固められたことを思い出してとっさに首を守るが、追撃は無いようだった。

「悩み事がありそうなのでお話に来ました」

相手の足を四の字に固めるのが赤城流のお話スタイルなのだろうか。加賀は彼女の頭を疑った。

体を捻って顔を見てみればいつかのように困った顔。本当に困っているのか、それとも困ったふりをしているだけなのかわからない、独特なあの顔だった。

しかしそんな顔をされても困る、と加賀。今の状態で一番困っているのは間違いなく加賀本人なのだ。

それを知ってか知らずか赤城は言葉が続ける。



「きつとこの間の演習ですよね」

加賀はどきりとした。とげとげしくあるようで実は臆病な加賀は赤城にそれを知られることを恐れていたのだ。

普段から感情が顔に出にくいから隠し通せると思っていたのに。加賀は自らの不出来に絶望した。

秘密を知られるのは怖い。失望されるのは嫌だ。そう考えた彼女は口を強く結ぶ。

ガ―リツシユ名無し：20XY／01／22

おーいい恰好だぜえ

ガ―リツシユ名無し：20XY／01／22

加賀さんの睨み顔怖スギイ！

ガ―リツシユ名無し：20XY／01／22

残念でもないし当然

1：20XY／01／22

この先の展開が思いつかねえぜ！

思い立ったら即安価！

←1

彩雲01：20XY／01／22

俺知ってるよ。このあとイチャラブエツチするんでしょ

彩雲01：20XY／01／22

安価近すぎイ！

ガ―リツシユ名無し：20XY／01／22

あっ…(察し)

ガーリツシユ名無し…20XY/01/22

(清楚イメージは守れましたか…?)

清楚マン…20XY/01/22

(守れませんでした…)

1…20XY/01/22

慰めるスレってそういう…(肝胆相照)

ガーリツシユ名無し…20XY/01/22

フフフ…○EX!

ガーリツシユ名無し…20XY/01/22

フフフ…S○X!

ガーリツシユ名無し…20XY/01/22

フフフ…SE○!

ガーリツシユ名無し…20XY/01/22

やめやめやめないか!

ある日の朝。吹雪は加賀を見つけた。

赤城さんに相談した日から初めて顔をあわせる日だ。どことなく緊張した面持ちになった彼女は「おはようございます!」と大きな声であいさつをした。

「あら、おはようございます」

普通。かえって来た台詞は普通であった。つい最近まで「…そうね、おはよう」とか「…フウ。おはよう」とか。どこことなく素っ気ない印象の挨拶ばかりだったからそれが却って新鮮だった。

なんだかうれしくなった吹雪は加賀の手を握って歩き出す。少し驚いた顔をした加賀だったが、すぐに目元を柔らかくしてほほ笑んだ。

「悩み事は解決しましたか？」

びくりと加賀の体が固まる。

「…っ。知ってたの？」

「ええ、まあ。結構丸わかりでしたけど…」

「…：…そう」

どこことなくしよぼんと肩を落とす加賀。あれで隠してたつもりだったのかと苦笑いする吹雪。

加賀は姿勢を正すとコホンと咳払いした。

「悩み事は解決したわ。『みんな違ってみんないい』んですって」

「ふわあ!?!赤城さんがそんないい事を!?!それって偽物だったんじゃない?」

「足を四の字に固められながらね」

「あ、本人ですね」

「…ふふ。本人が聞いたらきつと怒るわね」

本当は四の字なんてものじゃなかったけれど。内心舌を出しながら加賀はちよつとだけ嘘をついた。

【安価】明日はバレンタインデーです

1 : 20XY / 02 / 13

じゃけん提督に何かあげましょうね

安価 ← 3

フルバースト名無し : 20XY / 02 / 13

ちなみにバレンタインデーとはかつての古代ローマの祭りを異教を認めないキリスト教圏内でも続けるためにウァレンティヌスという架空の聖人をつくりあげこれを悼むための日としたのが始まりといわれており

フルバースト名無し : 20XY / 02 / 13

出たわね。

清楚マン : 20XY / 02 / 13

お酒！お酒です！

フルバースト名無し : 20XY / 02 / 13

なんで酒？

清楚マン : 20XY / 02 / 13

提督のことだからチョコいっぱい貰っちゃうでしょ？  
ならそれに合うお酒とかどうかなって！

フルバースト名無し : 20XY / 02 / 13

ア。くくくく→

おめえ天使かよ

フルバースト名無し : 20XY / 02 / 13

思いやりもプレゼントもでけえなお前

フルバースト名無し：20XY／02／13

清楚マンとかいう赤城スレ唯一の良心

1：20XY／02／13

提督へのプレゼントはチョコに合う酒でキマリっ！

どうやって渡そう？

安価←3

フルバースト名無し：20XY／02／13

彩雲兄貴に頼めば？

フルバースト名無し：20XY／02／13

空からプレゼントとか洒落てんな

メビウス：20XY／02／13

まかせろ

フルバースト名無し：20XY／02／13

ああああああああああ！

フルバースト名無し：20XY／02／13

あーあもう滅茶苦茶だよ

1：20XY／02／13

メビウス兄貴は所詮遊びたいだけの暇人じゃけエ  
いつ渡す？

安価←5

メビウス：20XY／02／13



ロマン：20XY／02／13  
提督を監禁して

ロマン：20XY／02／13  
ふたりつきりで

フルバースト名無し：20XY／02／13  
何だこいつら！危ねエぞ！

ブロンテイスト名無し：20XY／02／13  
よくみたら4り中3りが「くちまん」で草

フルバースト名無し：20XY／02／13  
またコピーミスか壊れるなあ

フルバースト名無し：20XY／02／13  
まあオリジナルが取ったから大丈夫でしょ（慢心）

1：20XY／02／13  
メビウス兄貴が大増殖したからって二匹目のドジョウを狙うのは、  
やめようね！

じゃあ最後の安価だ！渡すときにやる事←5

フルバースト名無し：20XY／02／13  
スープレックス

フルバースト名無し：20XY／02／13  
ラリアット

フルバースト名無し：20XY／02／13

ベアーハグ

フルバースト名無し：20XY／02／13  
パイルドライバー

彩雲01：20XY／02／13  
顎クイ

フルバースト名無し：20XY／02／13  
フェイスクラッシャー

フルバースト名無し：20XY／02／13  
おつぶえ!?

フルバースト名無し：20XY／02／13  
扱いが加賀さん並みで草

フルバースト名無し：20XY／02／13  
人知れず提督の命を救う艦載機の鑑にして純情を弄ぶ部下の屑

フルバースト名無し：20XY／02／13  
扱いが加賀さん並みってレスで普段からどんな安価されてるか容  
易に想像できますね…

フルバースト名無し：20XY／02／13  
こいつら提督と加賀さんの安価になると急に乱暴になるの気持ち  
悪いよな…

フルバースト名無し：20XY／02／13  
よしなよ



1 : 20XY / 02 / 13

渡すもの : 酒 (チョコに合うもの)

渡すひと : メビウス兄貴

渡すじかん : 日付が変わったらすぐ

渡すしちゆ : ふたりつきり

渡すときにやること : 顎クイ

以上のように決定いたしました (憔悴)

フルバースト名無し : 20XY / 02 / 13

まともなのと変なのが混在しててこれもうアレだなって

フルバースト名無し : 20XY / 02 / 13

わりとまともな安価になりましたね (メビウス兄貴から目をそらしながら)

フルバースト名無し : 20XY / 02 / 13

顎クイは必要なんですかね?

彩雲01 : 20XY / 02 / 13

必要です (アイアンウイル)

フルバースト名無し : 20XY / 02 / 13

彩雲兄貴ってそうなのー?

(なんだこれ…)

深夜12時過ぎ。大淀は執務室の前で困惑していた。

彼女の目の前には背中を見せる赤城と壁際に追いやられたケン提督。肩越しに見える彼の顔は真っ赤になっており、赤城の手はその顎に伸びていた。

もしこれだけだったら赤城優位のロマンスだったと解釈できたかもしれない。いや、むしろ大淀はそうであってほしかった。

どう見ても酒瓶を括り付けたゼロ戦が邪魔で理解できないのだ。液体が入っているためかチャポチャポと音を鳴らし、姿勢制御もままらないのかふらふらと。それでもって机の下や椅子の下、赤城の股の間などを飛び回っているのだから何がなんだかわからない。

大淀は自身の手元を見る。そこには義理ではあるが、丹精込めて作ったビターチョコ。

提督の仕事をちよこつとずらして日付が変わるまで寝させない作戦は成功に終わったが、第二作戦であるプレゼント一番乗りは無理そうだった。

【清楚】 清↓楚 完成でスーパー清楚タイム

1 : 20XY / 02 / 22

清

清楚マン : 20XY / 02 / 22

楚

名無しリデンプション : 20XY / 02 / 22

完成

清楚マン : 20XY / 02 / 22

やったあああああー！完成した！優勝した！

名無しリデンプション : 20XY / 02 / 22

はえーよホセ

名無しリデンプション : 20XY / 02 / 22

もう終わってる | 1145148101919364364点

名無しリデンプション : 20XY / 02 / 22

ちよつと待って！グダグダな流れがないやん！グダグダレス合戦  
になって涙目の清楚マン見たいからこのスレ開いたの！

名無しリデンプション : 20XY / 02 / 22

で、具体的に何すんの

1 : 20XY / 02 / 22

今日一日猫を被ります

名無しリデンプション：20XY/02/22  
そういえば今日は猫の日ですね

名無しリデンプション：20XY/02/22  
おいにやんにやんにやん！

ちくわ大明神：20XY/02/22  
今日は前川さんの誕生日です  
おめでとうございます

名無しリデンプション：20XY/02/22  
猫を被る：つまりブツキー弄りだな！

1：20XY/02/22  
そうだよ（肯定）

彩雲01：20XY/02/22  
カメラは任せろー（バリバリ）

名無しリデンプション：20XY/02/22  
そーいや艦載機って相乗りできるの？

彩雲01：20XY/02/22  
俺らは既に赤城に相乗りしてるんだからこれくらい誤差だよ誤差

！

名無しリデンプション：20XY/02/22  
赤城 定員 1630名

彩雲 定員 3名  
543倍の違いが誤差…？

名無しリデンプション：20XY／02／22

こまけえことはいんだよ!!

清らかですつきり。控えめで保守的。謙虚でつましい。これらの言葉が清楚に含まれる要素だ。

では当鎮守府でこれらが一番似合わない人物と言えは？

「あら、吹雪さん。おはようございます」

何を隠そう、今現在清らかな笑顔をぶら下げながら頭を下げている赤城という人物である。

そうであるため吹雪は身構えた。いつもならこのタイミングでなにかしら仕掛けてくるのに何もしないなんておかしい、と。

撫でまわしてこない。突然飛んでつたりしない。おやつのを超えた間食をしてない。凄味のキャラメルも渡してこない。赤城はしづしづと彼女と共に食堂に向かっているだけだ。

確かに普段からもっと大人しくなってくればな…と思うことはあつたが、何も突然大人しくならなくてもいいだろう。正直言って、吹雪はとても気味が悪かった。

ふと、影が差す。

彼女が空を見上げると、赤城の彩雲がのんびりと旋回していた。

彩雲AA：20XY／02／22

めつちや気味悪がられて草

彩雲D2 : 20XY / 02 / 22  
やっぱりな♂

清楚マン : 20XY / 02 / 22  
おかしい : こんなことは許されない :

名無しリデンプション : 20XY / 02 / 22  
▽清楚マン

たとえば野生のライオンがおまえの顔を舐めてきたとしよう  
実際のところはどうにしろ、味見にしか見えんよなあ？

彩雲A9 : 20XY / 02 / 22  
ところで彩雲相乗り勢の後ろの記号何？

彩雲01 : 20XY / 02 / 22  
数字やぞ

16進数  
名無しリデンプション : 20XY / 02 / 22  
ええ : (困惑)

名無しリデンプション : 20XY / 02 / 22  
つまり16×16まで数えられるってことは :  
256までカウントできる !

彩雲09 : 20XY / 02 / 22  
255人も乗れるのか :

ところで他の艦載機にはこんな数字なかったよな

彩雲00000001 : 20XY / 02 / 22  
なんか彩雲だけ特別仕様っぽい  
なんならもつと桁増やせるよ

名無しリデンプション：20XY／02／22  
増やすんじゃねえ!!

1：20XY／02／22

それにしても不思議である  
結局俺ら何者なんですかね

ロマン：20XY／02／22

今まで分かっていることと言えば…

・俺らは個々人として存在している。情報の共有は任意で選択できる

・ゼロ戦や艦攻や艦爆にはナンバーが無い。彩雲は特別

・赤城さんは誰でも動かせる

彩雲2B：20XY／02／22

✓赤城さんは誰でも動かせる

赤城さんはみんなの

名無しリデンプション：20XY／02／22

やめやめろ!

漣は自分がちよつと変わっていると自覚している。そしてちよつと変わった自分が好きだった。

自分がちよつとおどけてみるとみんなが笑顔になるし、みんなが尻

込みしているところで空気を読まずに突撃することで戦場の流れを変えてきた。

ちびっこいし、線は細いし、ちんちくりんな見た目であろうとも歴戦のおちやらけガールは今、一番の強敵と対峙していた。

「ふふふ、漣さんはいつ面白いですね」

それはもちろん赤城だ。何時もであったならば呵呵大笑とまではいかないまでも、「あっはっは」くらいは笑ってくれるのに…。

漣は横目で吹雪を見た。

「ねね、ブツキー。赤城さんとうとう変なキノコでも拾い食いしちゃったカンジ?」

「むしろ朝から朝食以外食べてないというか…」

「つまりカロリー不足…!」

まさかのダイエット中!?!漣の頭の中はクエスチョンで埋め尽くされた。

しかしよくよく考えてみれば朝食からまだ一時間も経ってない。むしろ間食が無い方が普通だ。少なくとも一般的には。赤城だってそんな気分だったのかもしれない。では何なのだろうか?漣はとりあえず一般的などころから切り出すことにした。

「そのー、赤城さん?」

「なんででしょう」

「もしかして体調でも崩しましたん…?」

「いいえ。好調ですよ」

どう見ても不調だよ!!!とは言えない漣。間食も変なこともしない赤城さんなんてサイドテールの無い加賀さんじゃん…なんて失礼な事も考える始末。

「じゃあ…減量中?」

「いいえ。太ったことありませんので」

「減びろ」

「漣ちゃん!」

漣は激怒した。必ず、かの暴飲暴食の女王を除かなければならぬと決意した。



漣には食べても太らない人の気持ちが変わらぬ。漣は、食べすぎれば太るのである。甘いものを制限し、ほどほどに運動して暮して来た。

なので減量に対しては、人一倍に敏感であったのだ。

「ぬあーっ！食べても太らんとかうラヤマー！ちゃんと太れよおーッ！」

「あらあら」

「落ち着いて漣ちゃん！めだか師匠みたいになってる！」

腕をブンブン振り回して赤城に向かうものの片手で止められてしまう漣。悲しいかな、その拳が赤城を捉えるには悲しいほど漣はちびっこだったのである。

どうしてこうなった…と吹雪は思わず天を仰ぐ。するとそこには相変わらず、彩雲が空を優雅に泳いでいた。

「あれ…？そういえば」

加賀さんから聞いたことがある。吹雪はある台詞を思い出した。

艦載機は自分の分身。私の腕や足のようなもの。だからこそ動かしときには注意力を割かなければならないの。

じゃあ何も意識していないように見える赤城さんは一体どれだけの集中力があるのだろうか？吹雪はとても不思議に感じた。

【報道】 青葉Ⅱサンのインタビュー

1 : 20XY / 02 / 28

2月28日の朝9時ごろ、青葉氏がインタビューにやってくるということを提督から言い渡される事件があった。

青葉氏がやってくるのは明日の昼1時。提督からは比較的大人しめの回答をしてくれるとありがたいなどとお願ひされている。

質問はあらかじめ決まっているものと少しのフリートークがある模様。

ネームレスⅡサン : 20XY / 02 / 28

青葉Ⅱサン!?! どうしてここに!

ネームレスⅡサン : 20XY / 02 / 28

状況判断だ!

ネームレスⅡサン : 20XY / 02 / 28

∨質問は既に決まっているものと少しのフリートーク  
ん?今安価するって

1 : 20XY / 02 / 28

当たり前だよなあ?

ってなわけで安価いくぞおおおおお!!

ネームレスⅡサン : 20XY / 02 / 28

やったあ!! (エ)

ネームレスⅡサン : 20XY / 02 / 28

安価は好きな時にできてしかも勝つ!

1 : 20XY / 02 / 28

そんなわけで第一のインタビューはこちら！

「貴女は普段どんな生活を心がけていますか？」

安価 ← 3

ネームレスⅡサン : 20XY / 02 / 28

金!!

ネームレスⅡサン : 20XY / 02 / 28

暴力!!

迫真お嬢様 : 20XY / 02 / 28

はしたないこと!!

ネームレスⅡサン : 20XY / 02 / 28

ええ : (困惑)

ネームレスⅡサン : 20XY / 02 / 28

性行為をはしたない事って表現するの草

清楚マン : 20XY / 02 / 28

提督が比較的大人しめの回答をしてくれるとありがたいって言う  
ているじゃないですか！まともなのは私だけですか!?

でかいボス : 20XY / 02 / 28

ボ用

1 : 20XY / 02 / 28

はしたないことは流石におハーブ生える

第二のインタビューはこちら！

「訓練するときは何に気を配りますか？」  
安価←3

ネームレス⇐サン：20XY／02／28  
訓練？俺たちそんなのやったことあるっけ？

彩雲01：20XY／02／28

『訓練』？いったい何を言ってるのかわからんが？（テニール感）

ネームレス⇐サン：20XY／02／28  
ほら、いつも加賀さんいじめてる

ネームレス⇐サン：20XY／02／28  
ああ、あれね

ネームレス⇐サン：20XY／02／28  
おい！→ってYO！安価ミスってんじやんか！アツアツアツアツ

ネームレス⇐サン：20XY／02／28  
これは再安価？

1：20XY／02／28

このままでも面白そうだしなんとかやってみるは  
では最後のインタビュ―はこちら！

「ずばり貴女の強さの秘訣は？」

安価←3

ネームレス⇐サン：20XY／02／28  
酒とっ!!!

ネームレス⇐サン：20XY／02／28

女あ!!

清楚マン：20XY／02／28

あと



「仲間との絆ですね」

今赤城は何と言った？インタビューにやってきていた活発そうな彼女、青葉は耳を疑った。

青葉は好奇心旺盛な艦娘であり、彼女はどこにでも首を突っ込みそれを記事にして配りたがる悪癖がある。

平時であれば問題は少ないが、敵の襲撃が予測されるような情勢でそんなことをされてはたまったものではない。なので普段はそれを控えてもらい、戦況が安定したら機密に触れない程度に好奇心を満たしてもらおうと上層部は判断していた。

今回青葉が横須賀に訪れたのもその一環であり、さまざまな鎮守府で話題になっている『無敵の赤城』に接触することで好奇心を満たしてもらおうとなっていた。

が。赤城は青葉が辟易とするほどの変人であったのだ。

貴女は普段どんな生活を心がけていますか？と聞けば「はしたない事をするようにしています」と言っただけを染める。

訓練するときは何に気を配りますか？と聞けば「加賀さんをいじめるように」と言っただけに意味深に笑う。

こんなのじゃ記事になりませんよ。などと心の中で愚痴りながら、ゴシップ雑誌に寄稿するつもりで期待せずには貴女の強さの秘訣は？と聞いた。

返ってきた台詞は前述のとおりである。

仲間との絆。

そう！これですよ！青葉は内心で歓喜した。やっとこさまともな

記事になりそうな答えが返ってきたのだ、これを逃す手はない。

「赤城さん！その絆とはどういったものなのでしょう！」

興奮した青葉の質問に赤城は「そうですね」と一拍置いてから語りだした。

「私たちは仲間と共に戦場に身を晒しますから、何よりも連携が重要です。」

ただのお金の繋がり、先輩後輩だけの繋がりでは連携は上手くいきません。なので『この人のためだったら危険に身を晒してもいい』と思われるような、そんな人物であろうと心がけています。

そして私もその思いに応え、仲間のために危険に身を晒し、私の手の及ばない部分やおろそかになりがちな部分を担ってもらったり協力してもらいます。

絆とは繋がり的事。どちらか一方からだけの信頼では成り立ちません。だからこそ尊くて、素晴らしく、そして強みになるのです」  
何という事だ。赤城はどこかのタイミングで誰かと入れ替わったのだろうか？青葉は訝しんだ。

正直いままで喋ってた赤城と今喋っていた赤城では人徳に雲と泥ほどの違いがある。

きつとどちらかが本物で、どちらかが偽物……。青葉は赤城に会うまでに会話してきた人物の言葉を思い返した。

『赤城さんはいい人ですよ。ただ、ちよつと突飛と言いますか。たまにとんでもない事を口走りますけど…』と苦労人気質の駆逐艦。

『何を考えているのかはいまわかりませんが、皆からは慕われているわ。……私？言うまでもないけれど』と仏頂面の空母。

『普段はいい人なんだけどね、普段は。たまに思いついたようにヤベーことするのは流石にやめてくれめんす』とピンク頭の駆逐艦。

よし！どつちもホンモノですね！

青葉はそう判断し、机に頭を思い切りぶつけた。

「こんなのに記事にできませんよー！ふざけるか真面目にするかどっちかにしてください！このまま記事にしたら加賀さん相手にいやらしい事をしたりいじめたりしているのにみんなから慕われている変

人になってしまいますよ!!」

「まじめに答えてますし割と合ってますよ」

「まじですか!!このまま新聞にした後で文句言っても直しませんからね!!!」



そんなこんなで発行された青葉新聞。今回の目玉はやはり赤城への個人面談の記事である。

そしてインタビューの内容をそのまま書き起こしたことで胃を痛める人物がいた。それは勿論赤城ではない。

「どうして…どうしてこうなるんだ…」

はしたないことって何なの?という純粋な駆逐艦からの質問。赤城と加賀の割と信憑性のある爛れた関係を噂する巡洋艦や戦艦たち。そして鳴りやまない上層部からの電話。

「凄い事になってしまいましたね」

赤城が電話対応をしながら困ったような笑みを浮かべる。渦中の人物へのダメージが実質ゼロとか納得いかないと思いつつも、提督はその言葉を胸にしまった。

ケン提督も男なのであるからして、美女からのお願いには大変弱かったのだ。彼は赤城の一部分をみてぽつりと呟く。

「やっぱり柔らかかったな…」

「えっ?何でしょうか」

「何でもない」

提督は赤くなつた顔を帽子で隠した。

## 【急募】 不知火から身を守る方法

1 : 20XY / 03 / 02

えー艦娘の赤城です（ガクガク）

最近不知火がキレ気味で睨んでくるので身の危険を感じるようになり対策を取ることになりました（ブルブル）

球審の名無し : 20XY / 03 / 02

ただ単にこつち見てるだけかもしれないだろ

勘違いしたらいかんよ勘違いしたらー

球審の名無し : 20XY / 03 / 02

そうだぞー

1 : 20XY / 03 / 02

お前からこれ見ても同じこと言えんの？

「参考画像」

球審の名無し : 20XY / 03 / 02

こつわ

那珂ちゃんのファンやめます

球審の名無し : 20XY / 03 / 02

これはハシビロコウの艦娘

ロマン : 20XY / 03 / 02

そもその話なんで睨まれる？

まあ心当たりは山ほどあるけれどそれ程の事だろうか…



球審の名無し：20XY／03／02

やっぱあれじゃねえ？黒潮の声真似して部屋に突撃するやつ

球審の名無し：20XY／03／02

そういえば不知火は大体陽炎か黒潮と居るな…

黒潮を騙られるのに腹を立てているとか

ブロンテイスト名無し：20XY／03／02

可能性ありすぎる…

ひよっとしたら黒潮も心を痛めていて不知火に相談をしているのではにいのか？まあ一般論でね

1：20XY／03／02

マ？ちよつと黒潮とお話ししましょ



「いやあ、そんなことあらへんよお」

黒潮は頬に手を当てながら朗らかにそう返事した。

ここは鎮守府にある駆逐艦艦娘寮。そこにある黒潮、陽炎、不知火にあてられた三人部屋で黒潮と赤城がちやぶ台を挟んで向かい合っていた。

陽炎と不知火は現在遠征に出ている。つまりこの部屋に居るのは二人だけだ。

「赤城はん考えすぎやで。ウチ、実は赤城はんがクロシオヤーって他人ひとの部屋に入っていくの楽しく見てるんや」

「つまりもつとやってもいいと」

「いやあ、ウチの口からはとてもそうは言えんなあ」

赤城の台詞に笑いながら返す黒潮。口では否定しているものの、そ

の表情を見ればどのようなように考えているかは簡単に分かるだろう。

「で、なんで赤城はんはこないなこと聞きに来たん？」

「実はですね」

「ここのところ毎日不知火にじっと見られている事を話す赤城。彼女の言い分では気が付いたらいつも鋭い目つきで見られているという。」

そのようにされる原因の一つとして黒潮関係が思いついたので、実は彼女が嫌な思いをしているのではないかと気がかりでやってきたとの事だ。

「こーいう気づかいはできるし人間関係には実直やから赤城はんはモテるんやねえと考えながらうーんと唸る黒潮。」

「それは多分あれやねえ」

「あれですか？」

「恥ずかしがってるだけやね」

「まじですか。赤城がぽかんとした顔をした。おー、レアな顔いだいたなあと思ひながら黒潮は続ける。」

「不知火はああ見えて恥ずかしがりやからなあ。多分、話しかけようとして勇気出んかった感じやろね」

「なるほど…。では次に見かけたときはこちらから話しかけてみます」

「不知火をよろしゅうたのみます」

相談に乗っていただきありがとうございます、と頭を下げ退室していく赤城。黒潮はそれを見送ってちゃぶ台に乗っていたお茶を口に含む。

「言うほど変人やったかなあ？ただのおもしろお姉さんやと思うんやけれど」

黒潮は見事に騙されていた。



1 : 2 0 X Y / 0 3 / 0 2

とのことだ

今回の対談で黒潮は天使だと分かったが異議のあるものは？

彩雲 0 1 : 2 0 X Y / 0 3 / 0 2

いぎなーし

球審の名無し : 2 0 X Y / 0 3 / 0 2

なんて神々しいんだ…

球審の名無し : 2 0 X Y / 0 3 / 0 2

サンキュー黒潮

球審の名無し : 2 0 X Y / 0 3 / 0 2

黒潮 i s G O D D E S S

メビウス : 2 0 X Y / 0 3 / 0 2

人の形をした天使

1 : 2 0 X Y / 0 3 / 0 2

てなわけで不知火対策は必要なくなりました！

終わり！閉廷！以上みんな解散！君らもう帰っていいよ！

球審の名無し : 2 0 X Y / 0 3 / 0 2

あいや待たれい（星威岳哀牙）

不知火に話しかける内容の安価を忘れておりますぞ

球審の名無し : 2 0 X Y / 0 3 / 0 2

安価？

球審の名無し : 2 0 X Y / 0 3 / 0 2

安価だ！

球審の名無し：20XY／03／02  
1を囲め囲め！！

球審の名無し：20XY／03／02  
ドンドコドンドコドンドコ

清楚マン：20XY／03／02  
なんだこの人ら！危ねエですよ！

1：20XY／03／02  
しようがないにやあ：いいよ  
安価←10、20、30

球審の名無し：20XY／03／02  
やったでコブシ

球審の名無し：20XY／03／02  
さあ、不知火お色気ショーの始まりや

清楚マン：20XY／03／02  
私で守らなきや（使命感）

「黒潮、少し良いですか？」

夜。消灯時間間際になって不知火が黒潮に話しかけた。ええよ、と

黒潮は返して三段ベッドの一番下に座り、隣をポンポン叩く。

無言で隣に座る不知火。その鋭利な眼光は黒潮ではなく、明後日の方向に注がれていた。

「今日、赤城さんと話しました」

「うん」

「その、思ったより親しみやすい人ですね」

「やろ？」

「あの…アドバイス、ありがとうございます」

顔を赤くして俯く不知火。黒潮はそのいじらしい仕草につい頭を撫でてしまった。

「シャイなんも困りものやんなあ〜」

「黒潮、やめてください」

「とか言うて抵抗せんのかからほんま不知火はかわええわ〜」

「私も仲間にいれてちょうだいよ〜」

上からヌツと伸びてきた腕が不知火の頭に乗せられた。

黒潮が見上げるとそこにはベッドの二段目で横になってニヤニヤと見下ろしている陽炎。

「ところで何話したの？」

「えつと…好物の話や友人関係などです」

「普通じゃん。それって本当に赤城さんだった？」

「赤城はんやって普通の事も話すやろ〜。陽炎は赤城はんの事どう思っとるん？」

「加賀さんを毒牙にかけるガチの変態」

「はえ〜」

楽しそうに話ながら親友の頭を撫でる二人と、満更でもない少女。この光景のために赤城の頭の中で凄まじい安価の取り合いがあったようだが、それを知る由は彼女らには無かった。

## 【速報】大井っち、やはりレズ

大井は北上に恋をしている。

はじめに言っておくが大井は女が好きという訳ではない。好きになった対象がたまたま女だったのだ。性別などその人物の要素の一つでしかなく、彼女の恋心を邪魔するほどの障害ではなかった。ただそれだけなのだ。

が、しかしそれは大井に限った話。恋の相手である北上はどうなのかは分からない。

男が好きなのか、女が好きなのか。それとも恋もしたことがないのか。それすら大井は知らなかった。否、聞くことを恐れていたのだ。べたべたとボディタッチしても怒らないし、たまに仕返しもしてくる北上を見て「もしかしたら…」と思うこともあるが、それは確信というほどではない。もし胸の内の気持ちを吐き出して、気味悪がられたらどうしようという思いがいつも大井の頭の片隅にあった。

「はぁーあ」

深いため息。大井と北上の関係は進展せず、かといって後退もせずの停滞状況がしばらく続いている。

心地よい日常が続いている反面、行き止まりにしているような閉塞感も感じていた大井はどうにかしたいと頭を悩ませていた。

「ちよつと鈴谷聞きまして？赤城さんと加賀さんのウワサ…」

彼女が入渠あがりベンチで涼んでいると、誰かのささやきが耳に入った。

その内容を聞いて感じたのは衝撃だった。あの堅物だと思っていた加賀が変人の赤城に美味しくいただかれていたなんて。

風に乗って届いてくるささやきはそれだけではない。提督とアレしたあの、漣にコレしたあの、吹雪にソレをやったのだと実にバリエーション豊かだ。

いくらか盛られているんじゃないだろうか？流石に大井は訝しんだが、火のない所に煙は立たぬとも言おう。

「よし、ダメ元で相談してみましよう」  
大井は決意を胸に秘めて立ち上がった。

1 : 20XY / 03 / 08

さつき大井つちに北上さんに嫌がられずにアレコレできる方法ありませんかかって聞かれたんですよね

メガトン名無し : 20XY / 03 / 08  
多分変態だと思っんですけど (名推理)

メガトン名無し : 20XY / 03 / 08  
隠す気ゼロに草

メガトン名無し : 20XY / 03 / 08  
ただ単に同類だっと思われているだけでは…?

メガトン名無し : 20XY / 03 / 08  
万里ある

彩雲01 : 20XY / 03 / 08  
まあ加賀さんとアレコレしてる時にいつもみんな聞き耳立ててるからね…

清楚マン : 20XY / 03 / 08  
少し泣く

1 : 20XY / 03 / 08

それはそれとして：（カイルの父の妹）  
安価の時間だああああああああ！！

メガトン名無し：20XY／03／08  
うおおおおおおお！！

メガトン名無し：20XY／03／08  
やったあああああつああ！11！！

1：20XY／03／08

では安価のお題はこちら！！ドン！！

大井つちにどのようなアドバイスをを行う？  
安価←4

メガトン名無し：20XY／03／08  
興奮してきたな

メガトン名無し：20XY／03／08  
押し倒せ。話はそれからだ

メガトン名無し：20XY／03／08  
まずバイブを購入します

とつくりスター：20XY／03／08  
ボデイタッチ減らせ

彩雲01：20XY／03／08  
珍しくまともなの当たったな

1：20XY／03／08

おk



とつくりスターの通りにやつとくは

とつくりスター：20XY／03／08

ここで豆情報を一つ

人は追いかけられると逃げてしまう習性があるが、逆に距離を置かれると追いかけてしまう

メガトン名無し：20XY／03／08

あつ、ふーん…

お前悪女かよ

地球救済センター：20XY／03／08

これが知恵という武器を身につけた悪魔の猿か…

1：20XY／03／08

はえくすつごい助言

最近、北上には悩みがある。

それは大井のボディタッチが極端に減ったこと。

何だそんなこと、ではない。これは大きな事件の先触れなのだ。

それはボディタッチが何故減ったのかを考えればすぐに分かる。

答えは単純明快、自分に触れようと思わなくなったからだ。

触れようと思わなくなったのは何故？自分に興味が無くなったからだ。

自分に興味が無くなったのは何故？それは……。

「これは、何かやっちゃいましたかねえく…」

いつもの余裕を感じさせるポケットとした表情は無く、彼女は真剣な表情で顎に手を当てていた。

このような北上の態度からわかる通り、彼女は大井を大変好ましく思っていた。それが友情か性的なものかは自分ですら判断は付かないが、常に一緒に居ても苦にはならない程度には心を許している。そんな相方に突然そっぽを向かれてしまえば焦るのは当然だった。

何が悪かったんだろ、と入渠あがりのベンチで天を仰ぐ。9割ぐらいの確率で隣に居る存在がないと二人組やグループで行動している艦娘がいやに気になる。

「ねー熊野、最近聞いたウワサなんだけどさ…」

そんな気になる二人組のひとつが噂話をしていた。なんでも最近赤城がお悩み相談の真似事をやっているとか。

加賀の悩みをアレした、吹雪の悩みをコレした、ついでに提督の悩みはソレになったなど、北上自身の耳にも入ったことがある噂話もいくつかあった。

しかしあの赤城にまともな相談ができるのだろうか？流石に北上は訝しんだが、打たぬ鐘は鳴らぬとも言おう。

「まあ、ダメ元で相談してみよっかな」

北上は決意を胸に秘めて立ち上がった。

1：20XY／03／15

【速報】北上さん、ほぼレズ

メガトン名無し：20XY／03／15

カニカマみたいに言うんじゃない

とつくりスター：20XY/03/15  
堕ちたな（確認）

ハイラル長友：20XY/03/15  
悪知恵のトライフォース

メガトン名無し：20XY/03/15  
とつくり兄貴の作戦大ハマりっすねえ

1：20XY/03/15

てなわけで今回のお題はこちら!!ドン!!

北上さんにどのようなアドバイスを行う？

安価←4

メガトン名無し：20XY/03/15  
とつとと襲うんだよ  
あくしろよ

メガトン名無し：20XY/03/15  
そりやもう二人で大運動会よ

彩雲01：20XY/03/15  
夜は二人でファイバーっしょ!アツハツハツハ

清楚マン：20XY/03/15  
させねえよ!?

大井さんに相談されたこととか全部吐いて悔い改めて!

メガトン名無し：20XY/03/15  
清楚マンとつちやったか

迫真お嬢様：20XY／03／15  
なんですかこの安価ゲッター達の欲に塗れた文章は  
ここも下品になりましたわね：

メガトン名無し：20XY／03／15  
品のある時期があったような言い方はやめろ

清楚マン：20XY／03／15  
やったああああー！防衛した！優勝した！

とつくりスター：20XY／03／15  
果たしてそれはどうかな？

1：20XY／03／15

あつふーん（察し）

じゃあ俺北上さんに助言して帰るから

なんてバカバカしい回り道だったんだ。

赤城から告白された事実で北上は頭がしばらく空っぽになり、そして  
どうにも馬鹿らしくて思わず笑い出してしまった。

まさかこんな単純なことすら思いつかないなんて、どれだけ思い詰  
めていたのだろう。押して駄目ならなんて陳腐な作戦にまんまとし  
てやられるとは、我ながら相当参っていたのだと思う。

すでに主の居なくなつた赤城相談所。その椅子に腰かけていた北上は机に突つ伏したまま様々に思いを巡らせる。

友情、性的うんぬんは置いとくとして、彼女としては大井を手放すという手はない。今回の件でそれを強く自覚した北上は大目標にまづそれを置いた。

では中目標や小目標は何だろうか？北上は机に頭をぐりぐりと押し付けて悩む。

「…そういえば大井つちって私の体に興味あるんだよね〜」

ポツリと。そんな剣呑な言葉が漏れた。机から頭を離し、両の手で自分の体をまさぐり始める。

あまり豊満とは言えない、むしろほっそりとしたボディライン。我ながら綺麗なラインを描いているなど彼女は自分を褒めた。

「そう、まあ、そうねえ」

にやりと口元をゆがめる北上。彼女は静かに立ち上がり、唇をぺろりと舐めて湿らせ相談所を後にした。

この後どうなったかは三人以外は誰も知らない。一人は北上。もう一人は大井。そして最後の一人は。

彩雲 01 : 20XY / 03 / 16

【速報】 北上さんの貞操観念はガバガバ

清楚マ : 20XY / 03 / 16

なんで  
?????????

## 【提案】 駆逐年長組とも仲良くなろう

誰かと仲良くなる。それは簡単？それとも難しい？

これは相手によって回答は大きく異なるだろう。攻撃的な人物であれば難しいと答えるだろうし、普段から付き合いのある相手なら至極簡単だ。陽気でおもしろいエセブリティッシュ巡洋戦艦であれば障害と捉えることすらできないかもしれない。

ではここで質問。いつもハチャメチャで、同僚を毒牙にかけ、ガチレスアドバイザーとしての噂が立っている人物と仲良くできるか？

「嫌です」

栗毛ツインテールの彼女、陽炎は真顔で手を横に振った。

ここ、横須賀鎮守府に所属している赤城には一つの目的がある。それはいろんな艦娘と仲良くなること。

彼女の内面には様々な人格が蠱毒の壺の中身のようにひしめき合っているが、彼ら彼女らの根元にあるのは「愉快に過ごす」ことだ。多少どころではない行き過ぎた行動もあるが、なにかとフォローのうまい人格の存在もあってほしいの艦娘とは良い関係を築けていた。

では関係を築けなかった艦娘とは？それは陽炎のように警戒心の強い者たちである。

川に石を投げ入れられた魚のようにスイスイと逃げる彼女たちに赤城は苦悩していた。撒き餌もダメ、罾もダメ、仕掛けを変えてもダメ…。そんなとき、赤城の中の一人が言った。「釣り網で直接捕れば？」

「陽炎さん。私と特別な関係になりましょう」

「嫌です」

さもありません。



なかよし駆逐艦：20XY／03／27  
なんで？（消沈）

1：20XY／03／27  
やっぱり駄目だったよ

なかよし駆逐艦：20XY／03／27  
タモで捕れたら釣り具なんて必要ねーんだよ！

なかよし駆逐艦：20XY／03／27  
陽炎ちゃん待ちガイル並みにガード固いつすね

清楚マン：20XY／03／27  
ばかな：まだ清楚力が下降しています…！

ボブ：20XY／03／27  
（はたして赤城に清楚を感じている人物が居るのだろうか？）

なかよし駆逐艦：20XY／03／27  
んでどうするっぺ？

1：20XY／03／27  
陽炎 ガード 崩し方 【検索】

なかよし駆逐艦：20XY／03／27  
格ゲーしか出ないゾ

なかよし駆逐艦：20XY／03／27  
調べたのか：（困惑）

とつくりスター：20XY／03／27

将を射んとする者はまず馬を射よって言葉があつてえ

なかよし駆逐艦：20XY／03／27

黒潮と不知火から攻略するってこと？

なかよし駆逐艦：20XY／03／27

外堀を埋めるのは大事。古事記にもそう書かれている

とつくりスター：20XY／03／27

あと他人から評価のいい人物って知らないうちに自分からの評価も上がってるんだよね

つまりいくら陽炎がツンケンしてても周りの評価が良かったらちよつとくらいなら気を許しても大丈夫かな…って気持ちになつてくるんだ

なかよし駆逐艦：20XY／03／27

とつくり兄貴の容赦なさっぷりにブルっちやうよ…

とつくりスター：20XY／03／27

あとヒトつてのは命令されると反発しちやうんだよね。それと共に教えることが好きなんだ

話し方のコツとしては「この箱を片付けろ」ではなく「この箱の片付けはどうすればいいのかやってみせてほしい」といった感じで

なかよし駆逐艦：20XY／03／27

はえ〜くすっごい勉強になる…

なかよし駆逐艦：20XY／03／27

これを陽炎ちゃんに実践するんですか？



1 : 20XY / 03 / 27

そうだよ (決意)

なかよし駆逐艦 : 20XY / 03 / 27

ああ逃れられない!

とつくりスター : 20XY / 03 / 27

あ、まだまだいろんな豆知識があつてえ



「相席よろしいでしょうか」

「えっ?」

同日、夕食時。陽炎、黒潮、不知火が座った四人掛けのテーブル席に赤城が近寄ってきた。

黒潮は「べつにかまわんでー」と手招きし、不知火は「どうぞ」と短く返事し開いている席を指した。その席は陽炎にとって運悪く、横隣りである。

陽炎は思わず顔をしかめたが赤城は気にした様子もなくそこに腰を下ろす。

「お隣失礼しますね」

「まー、いいケド…」

いまさら追い出すのもなんだし…とこの時の陽炎は思っていた。これこそが赤城の罠だとも知らずに。

食事を始めてしばらく。赤城と黒潮と不知火の会話は弾んでいた。吹雪の下着がどうのこうの、提督の秘密の引き出しの中身がどうのこうの。

一方で陽炎はたびたび振られる話に「あつ、うん」くらいの反応を返すのがやつとといった所。

なんで吹雪のパンツでこんなに盛り上がれるんだろ…と疑問に思うものの、大切な同僚が笑っている姿は陽炎の心を癒していた。

「あつ」

「おつと」

アハハ、と思わず陽炎がつかられて笑った時であった。彼女と赤城の肘がぶつかり合ってしまったのだ。

「あ、つとと。ごめんね赤城さん」

「いいえ、大丈夫ですよ」

ニコリと笑う赤城。それを見た陽炎は鼻の頭を掻きながら「そんなに悪い人じゃないのかな」と考え始めていた。



彩雲01:20XY/03/27

陽炎の表情が柔らかくなっています！

教授！これはいったい!?

とつくりスター:20XY/03/27

テーブルの席に座るときは対面ではなく隣がいいんだ

正面に居た場合はどうしても敵対的な意識がでるからね

逆に隣だと仲良くなりやすいよ

それと指や腕を組まないことも大事だよ

腕を組むという行為は自分を守る、つまりは外からの影響を遮ろうとする意識の表れなんだ

逆に言えば腕さえ使わせてしまえば腕は組めない訳だからこちらの主張が通りやすくなるよ

体と思考は互いに影響を与え合うからね

会議の時に軽食や飲み物、紙の資料が配られるのはこういう所から来ているんだ

さらに適度なボディタッチは相手に親しみを感じさせ、警戒心を薄れさせる効果があるよ

つまりこれらの効果により陽炎の心の壁は取り払われつつあるというわけだね

なかよし駆逐艦：20XY／03／27

これマジ？仲良くなるために本気すぎるだろ

なかよし駆逐艦：20XY／03／27

そなた！なぜ本気しか出さぬ！！

1：20XY／03／27

だって陽炎だけ仲間外れとかいやだし…  
もつとイチャイチャしたいし…

私いじけちゃうし…

なかよし駆逐艦：20XY／03／27

ピュアツピュアやないかい！！

1：20XY／03／27

あ、そうだ（唐突）

今日まだ一回も安価してないっすよね

なかよし駆逐艦：20XY／03／27

安価？

なかよし駆逐艦：20XY／03／27  
安価だ!!

なかよし駆逐艦：20XY／03／27  
囲め囲め!!

なかよし駆逐艦：20XY／03／27  
ドコドコドコドコドコ

なかよし駆逐艦：20XY／03／27  
こいつらいつも囲んで太鼓叩いてんな

清楚マン：20XY／03／27

おお：もう：

1：20XY／03／27

つてなわけで今回のお題はこちら!!ドン!!  
陽炎に振る話題は?

安価←5

なかよし駆逐艦：20XY／03／27  
興奮してきたな

インタビュアー：20XY／03／27  
浣→腸←ってのはしたことある?

なかよし駆逐艦：20XY／03／27  
性行為に興味は?

なかよし駆逐艦：20XY／03／27  
スリーサイズいくつ?

なかよし駆逐艦：20XY／03／27  
陽炎ちゃんのパンツ何色？

なかよし駆逐艦：20XY／03／27  
女の子にムラムラしたことは？

なかよし駆逐艦：20XY／03／27  
割と最悪のラインナップで草

デュエリスト：20XY／03／27  
何!?陽炎のスパッツは直穿きではないのか!?

清楚マン：20XY／03／27

なかよし駆逐艦：20XY／03／27  
大変!清楚マンが息してないの!

なかよし駆逐艦：20XY／03／27  
そのうち息吹き返すやろ

1：20XY／03／27  
安価結果 陽炎ちゃんのパンツ何色？  
じゃあいテキマース

とつくりスター：20XY／03／27  
上げて落とすって言葉があつてえ

なかよし駆逐艦：20XY／03／27  
駄目みたいですな(諦観)

「あー赤城さん！おはようござ…んん!?」

次の日の朝。いつものように赤城に挨拶をしようとしていた吹雪は彼女の顔を見てびっくりと背中を伸ばした。

「おはようございます、吹雪さん」

にこやかに手をふる赤城。その顔には真つ赤な手の跡がついていた。うわあ痛そう、なんて思いながらそれを訪ねる吹雪。質問された赤城はなんでもない事のように言った。

「陽炎さんにパンツの色を聞きました」

「当然そうなりますよ!」

吹雪は突っ込まずにはいられなかった。まごうことなきセクハラ発言である。むしろ張り手で済んで幸運なレベルだ。

「ところで吹雪さんは?」

「え、何がですか」

「パンツですよ、パンツ」

「聞いて当たり前みたいに言わないでください!」

ウガー!と吠える吹雪。それを見ている赤城は終始楽しそうにニコニコしている。

ああもうこの人と話すと疲れるなあ…なんて思いながらもなんだかんだ言っただけで吹雪もちよっぴり笑っていた。

「何やってんのアンタら」

「あ、陽炎ちゃん」

騒ぎを聞きつけてやってきたのか、それとも赤城に言いたいことがあったのか、怪訝な顔をしながらやってきた陽炎。

あんな変態に付き合っているとそのうち吹雪まで頭がおかしくなる

わよ、なんて助言をしながら赤城の前まで歩いていく。

「陽炎さん。おはようございます」

「あつ、うん。おはよう。昨日はあんなことがあったのに呑気なもんね…」

赤城の能天気な発言で毒気を抜かれたのか、彼女の顔から険がとれてしまう。

まあそんな人だしね…と吹雪が外野から見ていると陽炎が赤城にびしりと指をつきつけた。

「やつぱ謝るのはやめたわ！全面的にアンタが悪い！」

そりやそうでしょ、と心の中で毒づく吹雪。

「赤城さんがいろいろと遠慮しないんだったらこっちだって考えがあるんだから！」

そしてダツシユで走り去る陽炎。吹雪はその顔に少しだけ笑みが浮かんでいることに気が付いた。

セクハラはあったけどなんだかんだ仲良くなれそうではなかったと思いつつ、赤城の隣に並ぶ。

あ、そうだ。と思い出したように赤城は吹雪に語り掛けた。

「ちなみに陽炎さんはスパッツ直穿き派でした」

「なんで知ってんのよ!!!」

あちやあ、と顔を覆う吹雪。

そしてすぐに戻ってきた陽炎の張り手が炸裂したのは言うまでもない。

【悲報】比叡ちゃん、Aさんに美味しくいただけられたらしい

春。それは出会いと別れの季節。

「ソー！今日は絶好のお茶会日和デースー！」

とある天気の良い日。金剛はお茶に比叡を誘った。

榛名や霧島は任務に就いた鎮守府の関係で遠く離れているため、二人きりのお茶会である。

「天气に恵まれましたね！遠征中お姉さまの方はお変わりありませんでしたか？」

「バツチリお変わりナツシン！比叡の方も一人で大丈夫だったノー？」

比叡は金剛を筆頭とする姉妹達に愛されて育ってきたので超シスコンである。お風呂もご飯も寝る時も、どんな時も姉妹のうち誰か一人が傍にいた。しかし今回の金剛の遠征で一人鎮守府に残された比叡。果たして彼女はきちんとお留守番ができていたのか。

「実は、その。一人で寝るのってかなり心細くてですね、ちよつと寝不足気味に…」

「デスよねー」

「でもでも、それを見かねた親切な方が一緒に寝てくれたんです！」

「えっ？」

一体誰デシヨ？金剛は首をかしげながら紅茶の入ったカップを持ち上げる。

わりと甘えんぼな暁？ツンデレな叢雲？それとも意外なところで不知火とか？

「それはなんと、赤城さんなんです！」

金剛は持ち上げたカップをそのまま置いた。腕の震えがカチャカチャと食器を鳴らす。



「あ、あー…赤城と、一緒にデスカ？」

「はい！一緒に寝ました！」

一緒に…?!? (驚愕) 寝た…?!? (混乱)

「変なコトとかは無かったノ…?」

「変なコト…いえ、別に。いろんなところを揉んでくれたくらいで特には」

いろんなところ。ちちしりふともも?

金剛はテーブルに両手を付き、ガバリと立ち上がった。

「それ変なコトデース！」

「えーっ！そうだったんですか!?!」

アアー！私の知らない所で比叡が汚されて行くウー！

金剛は机に頭を叩きつけ、それきり沈黙した。

春。それは出会いと別れの季節。

1:20XY/04/02

【悲報】なんか比叡ちゃんにいやらしい事してたとか噂が立つ

スリドッグ:20XY/04/02

実際マッサージしただけ定期

スリドッグ:20XY/04/02

今までの加賀さんの前例とかあるしこの評価も残当

スリドッグ:20XY/04/02

なーんか比叡ちゃんに対してはいやらしい感情が出てこないんだ

よねえ

この感情について教えてエロい人！

エロい人：20XY／04／02

比叡ちゃん↓感情むき出しの活発っ子。子犬を愛でるような感覚のため性的な感情には結びつかない。

加賀さん↓感情を表に出すのが苦手。ヒイヒイ言わせて鉄面皮をはいでやりたいというSっ気を刺激されている。

スリードッグ：20XY／04／02

有能

スリードッグ：20XY／04／02

あっそっかあ…（理解）

スリードッグ：20XY／04／02

加賀さんは存在がスケベ（超速理解）

1：20XY／04／02

無防備かつ無知な相手に手を出すとか犯罪なんだよなあ…

スリードッグ：20XY／04／02

（加賀さんは合法でしたか…？）

おちん：20XY／04／02

開ける!!デトロイト市警だ!!

「とまあ、そういう事がありました」

鎮守府内にある人気の散歩スポット、桜の並木道で赤城がそう締めくくる。

それを聞いていた吹雪の反応は「そうですか…」といまいちパツとしない。

「いやもうそれ自業自得ですよね」と吹雪。普段から加賀をあれやこれやしている赤城は鎮守府全体の艦娘からそう見られても仕方がないほど評判がアレだったのだ。

「評判がアレですか？」

「アレですよ。隙を見せた艦娘を片っ端から毒牙にかけているのかなとか」

「別にそんなことはありません。ちよつとボデイタッチが多いくらいで、実際毒牙にかけてるのは一人だけですよ」

毒牙にかけて実績がある上でボデイタッチが多いのが問題なんだよなあ…と思いなながらも、吹雪は言葉を飲み込んで苦笑いを返す。

「ところで赤城さんは噂をどうしようしようとは思わないですか？」

これは吹雪がずつと抱えてきた疑問だった。こんな悪評が立っていればなんとかしようとするのが普通だ。目の前のひとは普通とは言い難いけれど。

彼女の疑問に対し、赤城は澄んだ瞳でこう言った。

「ひよつとすれば噂ではなくなるかもしれないからね」

「ああ、うん…」

そうだよね。赤城さんってこんな人だったよね。吹雪はそう思い口を噤み、それきり会話は途切れた。

桜の並木道を二人で歩く。ぱらぱらと舞い散る花を吹雪が目で追っていると、そのうちの一つが自分の鼻に乗ってしまった。

「あら、吹雪さん。鼻に」

そう言っつてひよいと花をつまみ上げる。風で長い黒髪が靡き、散りゆく桜も相まって神秘的な美しさを見せる赤城。しかし吹雪は近く

なった顔の距離に思う所はなく「気配りのできる綺麗なひと Nonetheless」だとただただ残念な気持ちになっていた。

彩雲01：20XY／04／02

えー、先ほどまでの観測結果をまとめますと…  
ブッキーはノンケ！ノンケです！

清楚マン：20XY／04／02

ここの住民はスケベなことしか考えないのか（諦観）

スリードッグ：20XY／04／02

そうだよ（便乗）

スリードッグ：20XY／04／02

そうだよ（ぶどう酒の名無し男）

スリードッグ：20XY／04／02

これブッキーがノンケじゃなかったらどうなったの？

1：20XY／04／02

然るべき対処をします

スリードッグ：20XY／04／02

対処、あっ…（察し）

スリードッグ：20XY／04／02

やっぱり噂通りの女じゃないか（ふんぬ）

スリードッグ：20XY／04／02

◆非常に健全◆

1：20XY／04／02

で、ここまでの流れで分かると思うけど…

安価の時間だあああああ!!

スリードッグ：20XY／04／02

安価うれしいヤッター!

スリードッグ：20XY／04／02

【安価】 うおおおおおおおおお!

スリードッグ：20XY／04／02

うおおおー! あっちーーー!

1：20XY／04／02

てなわけで今回のお題はこちら!! ドン!!

なんか残念そうな目で見てくるブツキーにどう対応する?

安価←5

スリードッグ：20XY／04／02

俺のために毎日味噌汁を作ってくれと要求する

スリードッグ：20XY／04／02

そらをとぶ

スリードッグ：20XY／04／02

加賀さんとの熱い夜の事を囁く

スリードッグ：20XY／04／02  
食堂までかけっこじゃい！

スリードッグ：20XY／04／02  
比叡にやっただみたいに撫でまわすんだよオオオーツ！

清楚マン：20XY／04／02  
あ：やつとまともな安価が当たったんですねって…

スリードッグ：20XY／04／02  
撫でまわすのがマトモなのだろうか？清楚マンは疲れているのだからか？家族と話をしているだろうか？

1：20XY／04／02

安価結果

比叡みたいに撫でまわす

よーしお父さん頑張っちゃうぞー

スリードッグ：20XY／04／02

お母さんなんだよなあ（指摘）

「失礼します」

え、と声を上げる間もなく両手で頭をガシリと捕らえられた吹雪。  
いやまさか赤城さんに限って無理やり接吻とかは…と高速で思考を

巡らせる。

赤城さんは、まあ、女の子に手を出せるタイプの人だ。でも無理やりなんて話は聞いたことはなかったし加賀さんとも関係は良好。

いやでも実はものすごいテクニクを持っていて、おいしくいただかれちやつた後に「ちよつと良かったかも」なんて展開になってただけだったりして――

と、そこまで考えたところで赤城の両手が動き始めた

「よーしよしよしよしよしよし」

「わぷつ！え、何ですか急に!?!」

まるで子犬を乱雑に撫でるかのような手つき。せつかく綺麗に整えた吹雪の髪はぐしやぐしやになりつつあった。

「ちよつとタンマ！タンマです！」

「はい」

意外と素直に手を止めた赤城。吹雪は慌てて髪の毛を整え始める。

「ええ…なんでいきなりこんなことするんですか。髪の毛ぐちやぐちやですよお…」

その質問に赤城は困ったように笑うだけ。奇行の後で誰かが困っているといつもこれだと吹雪は口を尖らせる。

「そんな顔するくらいならやらないでくださいよお…」

「嫌でしたか?」

「……」

吹雪は沈黙する。嫌かそうでないかなら、嫌じゃなかった。でもそう答えるには少し気恥ずかしい。

その内心を知ってか知らずか、再びガシリと彼女の頭を捕らえる赤城。

「はい、ちよつとタンマは終了です」

「え」

「よーしよしよしよしよしよし」

「あわわ、あわわわわわ」

やめてくれと言えばやめてくれるだろうけれど、なんとなくそうは言えなかった。

結局吹雪はその後も撫でられ続け、しばらく後に満足そうな顔を  
した空母と髪の毛ぐしゃぐしゃで顔を真っ赤にした駆逐艦が食堂に現  
れたのかなんとか。

「アーッ！また赤城が別の娘に手を出してるネー！」

「あっ！吹雪さんもアレやってもらったんですね！いいなあ」

「比叡？」

それを見た艦娘たちの間でまた変な噂が加速するのも、もはやおな  
じみである。



【速報】 瑞鶴、来襲

1：20XY／04／10

昨日午後8時頃、空母の艦娘が異動してきたとの情報が彩雲兄貴より入った。

詳しく調査してみたところ件の艦娘の名前は瑞鶴。どうやら加賀さんと交流があるらしく親しい間柄である。

本日の朝礼時に時間を取り、このタイミングで全員に告知する模様。

〔添付画像〕

黄金艦娘：20XY／04／10

おおくええやん

ブロッコリー：20XY／04／10

カワイイ！

黄金艦娘：20XY／04／10

このツインテの子が加賀さんの後輩とかマジ？  
先輩に比べて上半身が貧弱すぎるだろ……

清楚マン：20XY／04／10

胸の大きさは関係ないでしょ！いい加減にしろ！

黄金艦娘：20XY／04／10

しかしどんな子なんやろなあ  
結構気が強そうな顔してるけど

ぼぶ：20XY／04／10

この子はたぶんデレ多めの幼馴染系ツンデレだぞ  
僕は詳しいんだ

黄金艦娘：20XY／04／10  
ちなみにソースは？

ぼぶ：20XY／04／10  
ギャルゲ：（小声）

黄金艦娘：20XY／04／10  
知ってた（拈華微笑）

「せんぱ〜い！加賀せんぱ〜い！」

日も昇り切っていない朝早く。身支度を終えて食堂に向かっている最中の加賀はとある人物に呼び止められた。

「先輩っ！お久しぶりです！」

「瑞鶴」

息を切らし、駆けてきたその人物は加賀の手を取って止まる。彼女の名は瑞鶴、加賀が手塩にかけて育成した後輩の一人だ。

瑞鶴の方は加賀に逢えて嬉しくてたまらないといった表情で、それを見た加賀は目元をわずかに綻ばせた。

「今日からこっちに配属されたんです！また一緒に……あっ」

瑞鶴の視線が下に落ちる。それに釣られて加賀も視線を追うと、そこには彼女に握られた自らの手。

瑞鶴は慌ててその手を振り払うと、腕を組んでツンとそっぽを向いた。

「ふ、ふんっ！加賀さんの方は壮健そうだなにより！あんまり元気なさそうだったらライバルの私まで評価が落ちちゃいますからね！」

そして取り繕うように捲し立てる。その頬は僅かに朱に染まっていたがそれを指摘するような野暮はせず、加賀は「そうね」と笑いなから返した。

それが恥ずかしかつたのか「さっさと食堂に行きましょ！」と加賀の背を押す瑞鶴。その様子にまた加賀は笑みを零した。

「……加賀さんってそんなに笑ってましたっけ？もつとコミュ障っぽかったと思うんだけど」

「聞こえているわよ」

「やばっ」

「……まあ、いいわ。確かに最近、よく笑えるようになったから」

「へえ。これはちよつとした大事件ですね」

「ところで瑞鶴」

へ？と不意を食った瑞鶴。加賀は少し意地が悪そうな顔で振り向き、彼女に問いかけた。

「もう先輩って呼んでくれないのかしら？」

「……っあれは初回サービス！次はないからっ！」

「そう、残念ね」

あーもう！さっさと食堂にいきますよ！と背中を押す力を強くする彼女。

先ほどの瑞鶴の崩れた顔を思い出しながら、はいはいと加賀は素直に押されて行った。

ぼぶ：20XY/04/10

僕は詳しいんだ(どや顔)

ペンギン：20XY / 04 / 10

はああああっ…!

狂うくくく (歓喜)

彩雲01：20XY / 04 / 10

ビデオクリップ作ったから後で編集して上げてやるよオラア!

黄金艦娘：20XY / 04 / 10

助かる

黄金艦娘：20XY / 04 / 10

ちようど切らしてた

黄金艦娘：20XY / 04 / 10

こんなところで彩雲兄貴の恩恵にあずかるとはな

黄金艦娘：20XY / 04 / 10

確かに

愚地：20XY / 04 / 10

カガ×ズイ

独歩：20XY / 04 / 10

ズイ×カガ

愚地：20XY / 04 / 10

なんだア?てめエ:

独歩：20XY / 04 / 10

なんだア?てめエ:

黄金艦娘：20XY/04/10  
やめろめろめろイタチめろ！

1：20XY/04/10  
喧嘩してはいけない（戒め）  
ところでえ、安価したくないっすか？

黄金艦娘：20XY/04/10  
安価？

黄金艦娘：20XY/04/10  
安価だ！！

黄金艦娘：20XY/04/10  
困め困め！

黄金艦娘：20XY/04/10  
ドンドコドンドコドンドコ

黄金艦娘：20XY/04/10  
こいつらいつも困んで太鼓叩いてんな

黄金艦娘：20XY/04/10  
ここまでテンプレ

1：20XY/04/10  
今回のお題はこちら！！ドミニクサンチャゴ！！  
「朝礼後の瑞鶴になんて声を掛ける？」  
安価←5

黄金艦娘：20XY/04/10

ドムのフルネームは笑うからやめろ

黄金艦娘：20XY／04／10

お前を：〇す！

黄金艦娘：20XY／04／10

次の獲物は貴女です

黄金艦娘：20XY／04／10

この後加賀さんと一緒にエクササイズしましょう

清楚マン：20XY／04／10

これからよろしくね

黄金艦娘：20XY／04／10

下着は何使ってる？

黄金艦娘：20XY／04／10

フツツー！普通ですよカテジナさん！

黄金艦娘：20XY／04／10

これは絶許

清楚マン：20XY／04／10

やったああああああ!!

防衛した！優勝した！

1：20XY／04／10

安価結果

これからよろしくね

じゃあ後で瑞鶴に挨拶だけして帰るから…(しぶしぶ)

とつくりスター：20XY／04／10

ふーん

「赤城さんって割と普通の人でしたね」

昼の食堂での食事中。

瑞鶴の何気なく放った言葉が加賀の食べる手を止めさせた。なぜそう思ったのか？という視線を向けるとその意を酌んだ彼女が言葉が続ける。

「だって、朝のあいさつの時に向こうからやってきてくれて、しかもよろしくねって丁寧挨拶されちゃった。話を聞いた限りじやもつと破天荒な歓迎を受けると思ってたんですけど」

艦載機で垂れ幕飛ばすとか。

ああ、そういうこと。口の中のものを飲んだ加賀が箸を置いて瑞鶴に向き直る。

「そのよろしくには言葉以上の意味があるわ」

「ええ〜？考えすぎじゃないですか？」

「いいえ。あのひとの事は良く知ってますもの」

む、と。僅かな嫉妬に瑞鶴が眉をひそめた。

「それはきつと…」

「加賀さんに瑞鶴さん。ご一緒してよろしいですか？」

「あ、赤城さんだ」

彼女が答えを言う前に闖入者が現れた。それは先ほどまでの会話で登場した赤城そのひとだ。

加賀と瑞鶴は顔を見合わせ、どうぞと空席を指す。

「ありがとうございます。…ところで先ほどまで私の話を？」

「あー、まあ。これ言っちゃつていいのかな…？」

「大丈夫よ瑞鶴。赤城さんは怒らないわ」

それなら、と先ほどまでの会話をかいつまんで話す瑞鶴。もつとめちやくちやな歓迎をされると思っていたが肩透かしを食らったそれを正直に話した。

「なのによろしくだけって…って思っちゃつて」

「うふふ、ああいうのは不意を突くから面白くなるんですよ。普段からやつていたらそれが日常になり、マナーを起こしますからね」

「あれ、思ったより頭良さそう？」

「こら、瑞鶴」

加賀がペシリと瑞鶴の手を叩く。いてつと声を漏らした彼女はバツが悪そうにてへへと笑った。

「ところで赤城さん」加賀が目を鋭くしながら問いかけた。

「先ほどのよろしくの言葉の意味ですが」

加賀の目がさらに鋭くなる。それに対する反応は、苦笑이었다。

瑞鶴を見て、赤城を見て…加賀は、瑞鶴の首に手を回して抱き寄せた。「はわっ!？」と声上がるもお構いなしだ。

「この子は駄目ですよ」

「えっ!?! どういうことですか先輩!」

「瑞鶴は知らなくていいのよ」

えっ?えっ?と混乱した声を上げ続ける瑞鶴と、それを守る母のように庇う加賀。それを見ている赤城はただ困ったように笑うのみだった。



清楚マン：20XY／04／10

えっ？えっ？

もしかして狙ってるって思われてる？

なんで  
???????

とつくりスター：20XY／04／10

語らないというのは語る以上の強力な言葉なんだ  
みんなは気を付けようね

黄金艦娘：20XY／04／10

はあい！

1：20XY／04／10

とつくりスター兄貴の読みは完璧でしたね

はあ駄目：尊い：

彩雲01：20XY／04／10

ビデオクリップが潤うな

愚地：20XY／04／10

これはカガ×ズイ

独歩：20XY／04／10

確かに：

黄金艦娘：20XY／04／10

独歩、納得!!

【拝聴】 叢雲ちやんのえちえちボイス配布中

まだまだ春の盛りの4月中旬。この時期の見ものと言えば舞い散る桜やかぶなどの収穫、あとは虫と共に目覚める裸の変態などなど。しかして鎮守府はいつもと変わらず平常運転。深海棲艦やどこかの誰かもこのところ大人しく、穏やかな時間が流れていた。

「瑞鶴、何をしているのかしら?」

そんな矢先である。ヤモリのごとく提督室の扉に貼り付く後輩を見つけてしまった加賀。彼女は頭に手を当て、はあ…と大きなため息を吐いてしまった。

もしや約一名の変態にあてられてしまったのかと考えたが、どうやら瑞鶴の顔は真剣な様子。

「ちよつと加賀さん、聞いてみてください」

瑞鶴に手招きをされ、促されるままに扉に耳を当てる。すると中から声押し殺した提督の声と嬉しそうな赤城の声が聞こえた。

また赤城さんが何かしているのね、と判断し扉の向こうに意識を傾ける加賀。

「提督、随分固くして…たまには発散すべきですよ」

「うっ…：…しかしだな、くっ、忙しくてとてもそんな暇は…」

「ほら、こんなところまで。力を抜いてください、痛くしませんから」  
ははあ。これはこれは。

加賀と瑞鶴は扉から耳を離し、向かい合った。

「提督さんと赤城さんってそーいう関係だったんですか?」

「いいえ。これは違うわ」

顔を赤くして瑞鶴。しかし加賀は何でもないことのように返した。そしてそのまま扉に手を掛け開け放ってしまう。瑞鶴の顔はサツと青くなった。

「ア、アーーーーーッ!!先輩、まずいですよ!こんなとこ誰かに見られちゃったら!」

言葉を繕うことも忘れて慌てる彼女。しかし加賀はどこまでも冷静に中を指さし、指摘した。

「肩を揉むのがそんなにまずい事かしら？」

「……………あれっ？」

中を覗いて口を開けたまま呆ける彼女。開いた扉の先に居たのは肩を揉む赤城と揉まれている提督だった。

赤城の方は扉が開く前から気が付いていたのか、にこやかに手を振っている。

「赤城さんがやるときはもつとねちっこいわ」

誰かの放ったその言葉は幸いにも誰にも届くことはなかった。

1 : 20XY / 04 / 15

提督のマツサージは楽しいゾイ!

肉体派艦娘 : 20XY / 04 / 15

背中までカチカチじゃんコイツ

肉体派艦娘 : 20XY / 04 / 15

オラ肩もみ!

肩もみ休止!

肩もみ!

彩雲 01 : 20XY / 04 / 15

提督のアへ顔ゲツトだぜ!

いる?

肉体派艦娘：20XY／04／15  
いない

肉体派艦娘：20XY／04／15  
切らしてない

肉体派艦娘：20XY／04／15  
写す価値無し

清楚マン：20XY／04／15  
ケン提督エ…

1：20XY／04／15  
いやー遊んだ遊んだ

ケン提督面白いようによがるっすね

肉体派艦娘：20XY／04／15

提督は気持ちいい

1も楽しい

ウインウインです

肉体派艦娘：20XY／04／15

でもさケン提督の顔見てたって面白くないんだよね  
艦娘にしようよ

1：20XY／04／15

確かに…

ではアンカします

肉体派艦娘：20XY／04／15

安価？

肉体派艦娘：20XY／04／15  
安価だ！

肉体派艦娘：20XY／04／15  
囲め囲め！

マダンテ：20XY／04／15

ジョインジョインジョインジャギイデデデザタイムオブレト  
ビューションバトローワンデッサイダステニーヒヤツハーペシツペ  
シツペシツペシツペシツペシツペシツペシツペシツペシツペシツハ  
ヒーツヒヒヒーツヒヒヒーツヒヒヒーツヒヒヒーツヒヒ

肉体派艦娘：20XY／04／15

こいついつも囲んでドラム缶でハメてんな

1：20XY／04／15

今回のお題はもちろんこちら!!首領!!

誰にマツサージする? (艦娘限定)

安価←5

肉体派艦娘：20XY／04／15

加賀さん

肉体派艦娘：20XY／04／15

加賀

肉体派艦娘：20XY／04／15

加賀さん

肉体派艦娘：20XY／04／15

かhがsあmm

ブッキーファンクラブ：20XY／04／15  
hubuki

肉体派艦娘：20XY／04／15  
加☆賀

肉体派艦娘：20XY／04／15  
へえっ!?

肉体派艦娘：20XY／04／15  
なんやて!?

肉体派艦娘：20XY／04／15  
なんだこのスナイプ!?

1：20XY／04／15  
安価結果は吹雪です!  
で、いつやるの?

肉体派艦娘：20XY／04／15  
夜でしょ（アンチ林先生）

「あれ？吹雪生きてたのね」

そんなあんまりな言葉を投げかけたのは叢雲だった。  
時は日をまたいだ朝食の時間、場所は食堂。そこで吹雪が死んだ目

をしながら納豆をかき混ぜていた。

それを見た叢雲はひとまず話を聞かすために同席する。

吹雪はゆうべ、なんとあの性欲モンスターと噂に名高い赤城に呼び出されていたのだ。それを聞いた叢雲はそつと手を合わせて吹雪の貞操の無事を祈ったものだ。

「で、昨日赤城さんに何されたの？」

朝食を載せたお盆を置きながら質問。吹雪は納豆を混ぜる手をいったん止め、寝不足を全く感じさせない、しかし死んだ瞳でぽつぽつと語りだした。

「一晩中マツサージされてた…」

「え、それだけ？それとも何かの比喩かしら」

「ううん。ほんとにマツサージだけ」

なんで？そんな野暮な事を訊きそうになったが叢雲は口を噤む。そんなことが分かれば誰も苦勞しないのだ。

「快眠できたけどすごく悔しい。変な声いっぱい出ちゃったし…」

「ただの慰勞だったとか？」

「かも…」

「ひよつとしたら吹雪のいやらしい声を合法的に聞きたかっただけかもね」

その一言に吹雪がバツと顔を上げた。そんなまさか！とか、もしかして…!?とか考えているのが丸わりの百面相を晒しながら葛藤し、悔しそうに眼をぎゅつと瞑りながら絞り出すように言う。

「否定できない…!」

「あんなのでも一応アンタを気にかけてくれる先輩でしょ。なんとか反論くらいしなさいよ」

「あ、あ——…。……。……。」

「ごめんなさい、無理言ったわね」

口をぱくぱくさせて空気だけを吐き出す吹雪の肩をぽんと叩く。赤城の事をよく知っているからこそ導き出される事実もあるのだと叢雲は察したのだ。彼女を見る目はどこか悲しげであった。

しゅんとしてしまった吹雪を元気づけるように「別にアンタは悪く

ないわよ」とか「赤城さんの普段の行いが悪いだけだから吹雪関係ないでしょ」と叢雲の不器用なフォローが飛び、なんとか持ち直す彼女。しかし何かに気が付いてしまったのか、ハツとした顔になった。

「もし赤城さんがいやらしい目的でマッサージしているのなら、明日にはまた次の被害者が……!?!」

「大げさでしょ。夜な夜なマッサージして快眠させてくるとか座敷童もびつくりの良い妖怪じゃない」

確かに……。吹雪は納得した。

「ま、ちよつと変な声聞かせてあげただけで快眠させてくれるなら儲けものでしょ？次は私あたりが呼び出されないかしら」

フフツ、と叢雲は上品に笑う。しかし吹雪は返答せず、苦笑い。

「あー、ウチ知つとるで。そーいうのフラグ言うんやろ?」  
通りすがりの艦娘の言葉が吹雪の心の内を代弁した。

1 : 20XY / 04 / 16

と、いう訳で…

マッサージの時間だあああああああ！

彩雲01 : 20XY / 04 / 16

今回マッサージする艦娘は叢雲っ！

まだXX歳の少女である彼女はこの激しい調教に耐えることができるのでしょうか？

それではご覧ください

肉体派艦娘 : 20XY / 04 / 16

おお無礼なケツだ♀

清楚マン : 20XY / 04 / 16



自分から立候補したって本当ですか？絶望しました…叢雲ちゃんを守護ります（決意）

肉体派艦娘：20XY/04/16

実際のところは彩雲兄貴の諜報によりマッサージしてほしいという旨を口走っていた所をキャッチされたみたいゾ

肉体派艦娘：20XY/04/16

彩雲兄貴ほんと情報収集だけは一級品ですね…

肉体派艦娘：20XY/04/16

むしろそれができなかつたら空飛ぶ穀潰しってそれ一番言われてるから

1：20XY/04/16

今回の安価はコチラ！KABOOM！

叢雲ちゃんにどのグレードのマッサージをお見舞いする？

A・ふつうのマッサージ

B・声が漏れちゃうくらい気持ちの良いマッサージ

C・性感マッサージ健全スペシャル

安価は←6

肉体派艦娘：20XY/04/16

（察し）

肉体派艦娘：20XY/04/16

Cでしよ

肉体派艦娘：20XY/04/16

Cだよなあ？

肉体派艦娘：20XY/04/16  
Cだよ（便乗）

肉体派艦娘：20XY/04/16  
CCCCCC